

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



日印国交樹立 60 周年記念事業

インド共和国派遣日本武道代表团（10 月 31 日～11 月 7 日・インド共和国デリー市）

インドでの演武大会に、6300 人の大観衆

（詳細は 274 頁より）

全日本選手権大会・全国大会（相撲・空手道・少林寺拳法・なぎなた）



全日本なぎなた選手権大会
優勝＝安喰愛選手



少林寺拳法全国大会
一般男子五段以上の部最優秀
＝福家健司・麻田育弘組



全日本空手道選手権大会
男子組手優勝＝松久功選手



全日本相撲選手権大会
優勝＝遠藤聖大選手

全日本相撲選手権大会

三回戦—遠藤（右）が前回優勝者の松永六十四を突っ張りで攻める

遠藤聖大（日本大）が初優勝



決勝＝遠藤（左）対正代



左から中村、大道、遠藤、正代



開会式

第61回全日本相撲選手権大会は、昨年12月2日、東京・両国の国技館で開かれた。決勝では遠藤聖大しやうた四段（日本大）が正代直也参段（東京農業大）を寄り切りで降し、初優勝を果たした。3位には大道久司（東洋大）、中村大輝（日本体育大）が入賞した。（282頁）



全日本空手道 選手権大会

男子個人組手決勝＝優勝した松久（左）

松久功が現役最後に花を咲かす



女子個人組手決勝＝小林（左）対染谷



個人形で優勝した喜友名（左）と宇佐美



開会式

内閣総理大臣杯第40回全日本空手道選手権大会は、12月8、9日に東京武道館（8日）と日本武道館（9日）で行われた。
今年を現役最後として出場した松久功（実業団）は決勝で荒賀龍太郎（前年度優勝）を破って2年ぶり4度目の優勝を決め、自らの引退に華を添えた。（288頁）



少林寺拳法 全国大会

一般男子五段以上の部で最優秀に輝いた福家（左）・麻田組の迫力ある演武

一般男子
五段以上

福家・麻田組（東京）が初V



男子運用法の部・最優秀＝木下恵太四段（左）と渡邊陽樹三段の乱捕り



一般男子五段以上の部・最優秀＝福家健司七段（左）、麻田育弘五段



会場となった横浜国際プール、開場前の様子

少林寺拳法創始者宗道臣生誕100年を祝う、2012年少林寺拳法全国大会は12月2日、全国から2370名が参加し、横浜で開催された。一般男子五段以上の部では、福家・麻田組（東京）が最優秀に輝いた。（294頁）



全日本なぎなた選手権大会

準決勝＝安喰（右）対田中

安喰愛が2年連続3回目の日本一



決勝＝安喰（左）対佐藤



左から3位・蓮見、優勝・安喰、2位佐藤



選手全員で行われたしかけ応じ

皇后盃第57回全日本なぎなた選手権大会が12月2日に行われ、決勝で前回優勝者の安喰愛四段（島根）と佐藤美穂子四段（大分）が対戦し、判定で安喰四段が勝って2年連続3回目の皇后盃を手にした。（300頁）



日印国交樹立60周年記念事業 インド共和国派遣日本武道代表团

武道を通じて日印親善に寄与

日印国交樹立60周年記念事業として「インド共和国派遣日本武道代表团」は昨年10月31日から11月7日までの8日間、インド共和国・デリー市を訪問した。日本武道館の海外派遣事業は、日本武道協議会との共催で毎年実施しており、平成24年度は、自主事業として5年目、文部科学省からの国庫補助対象事業として3年目を迎える。

今回の日本武道代表团は、島村宜伸^{よしのぶ}・日本武道館常任理事（元衆議院議員、元文部大臣、元農林水産大臣）を団長に、柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道の現代武道9種目と、濫川流柔術、円心流居合、据物斬剣法、金硬流唐手沖縄古武術の古武道3流派、総勢71名で編成された。





演武大会会場・インディラガンジースタジアムには、6300人が集まり、大盛況の賑わいを見せた（写真は相撲体験の様子）

日印国交樹立60周年記念
インド共和国派遣日本武道代表団
結団式・壮行会



成田国際空港・第2ターミナル団体待合室にて

◎1日目

■結団式・壮行会

10月31日、成田国際空港（第2ターミナル団体待合室）にて、平成24年度インド共和国派遣日本武道代表団の結団式・壮行会が行われた。

結団後、松永光日本武道館・日本武道協議会会長が「武道演武会の成功、さらには団員全員の安全と健康を祈念します」と壮行の言葉を述べ、島村宜伸団長は「インドはこれからこの国です。この事業をきっかけに、より一層の友好親善に努めてまいります」と挨拶。続いて、白井日出男日本武道館理事長の発声により本事業の成功を祈念して乾杯が行われ、



インド政府・青年スポーツ省へ表敬訪問
会談後、兜飾りの置物が島村団長から P.K. デヴ次官へ贈呈された

小宴となった。

最後に出席者全員で記念撮影し、団員は一致団結して、日印の国際交流を成功させるべく、固い決意でインドへと出発した。

■インド到着

約10時間のフライトを経て、インディラ・ガンジー国際空港へ到着。空港ロビーでは在インド日本国大使館の職員ら大勢の関係者に出迎えられ、島村団長へ歓迎の花束が贈呈された。

その後バスで宿舍のホテルに到着すると、予約していたはずの部屋が確保できていないなどのトラブルがあり、対応に追われる初日となった。

◎2日目

■青年スポーツ省表敬訪問

11月1日、午前中は、招聘元であるインド政府・青年スポーツ省へ表敬訪問を行った。ただし、10月末にインド政府の内閣改造があった影響で、当初より少人数での訪問となった。島村団長は、青年スポーツ省の P・K・デヴ次官と会談し、招聘への感謝を述べると共に、本事業の意義や、インドと日本の友好親善につ

いて有意義な意見交換を行った。

■FICCI本部にて記者会見

午後からは、演武大会の後援団体である FICCI（インド商工会議所連合会）本部にて、地元メディア関係者約40名が集まる中、記者会見が行われた。

はじめに、FICCIの R・V・カノリア会長から記者会見開催の挨拶と概要が述べられ、次に島村団長から、今回のインド派遣事業の趣旨説明があり、記者の質問に答えた。続いて各道の紹介と、演武大会の見どころや、意気込みなどが語られた。

■ウエルカムパーティ

午後7時には、FICCI主催のウエルカムパーティが同本部にて盛大に行われ、在インド日本国大使館から林肇次席公使、インド政府から青年スポーツ省の P・C・カシヤップ氏が出席された。最初に、FICCI副会長のシッダールトゥ・ピルラ氏が歓迎の言葉を述べ、島村団長からは謝辞と、宮本武蔵の日本人形が記念品として贈呈された。集まった関係者約200名は言葉の壁を越え、終始和やかな雰囲気の中、懇談を深めた。



ウェルカムパーティにて、宮本武蔵の人形が島村団長からシッダールトゥ・ビルラ FICCI 副会長へ手渡された



演武大会の記者会見に各道代表者は演武姿で出席
(島村団長の右隣が R.V. カノリア FICCI 会長)



歓迎のよさこいソーラン節を見事に演舞した
日本人学校中学部の生徒たち



日本人学校・武道セミナー



相撲体験に喜ぶ日本人学校の子供たち



ミニ演武会（弓道）の様子



武道について講話する剣道の
目黒大作範士八段

◎ 3 日 目

■ 日本人学校での武道セミナー

11月2日、午前中はニューデリー日本人学校にて「武道セミナー」を開催。開会式では島村団長が主催者挨拶を行い、日本人学校の白井治久校長と北村英樹PTA会長が歓迎の挨拶を述べた。続いて小学部6年25名による和太鼓、中学部60名によるよさこいソーラン節が歓迎演舞として披露されると、生徒たちの見事な演舞に団員一同、惜しみない拍手を送った。

「武道セミナー」の最初は、剣道の目黒大作範士八段が武道についての講話を行った。礼法、心構え、鍛錬、スポーツとの違いなどの話に、生徒たちは真剣に聞き入っていた。

次のミニ演武会は、生徒の保護者なども続々と集まって約500名ほどの観衆となり、各道が子供向けに解説を加えるなどの工夫をこらした演武内容に、大いに盛り上がりを見せた。なかでも相撲は大人気で、次から次へと体験希望者が殺到し、子供たちが、体の大きな団員を土俵の外まで力いっぱい押し切って喜ぶ姿に、会場も沸き立った。



インディラガンジースタジアム



交流稽古（空手道）の様子



弓道



剣道



なぎなた

交流稽古

午後は、柔道・剣道・空手道が演武会場のインディラガンジースタジアムで、合気道は地元の道場へ出向き、それぞれ現地の武道団体と交流稽古を行った。

■在インド日本国大使館表敬訪問

午後7時に、島村団長及び各道代表者が在インド日本国大使館を表敬訪問した。大使館では、本事業に力強くご支援いただいた齋木昭隆前大使（現、外務審議官）からバトンを受け継いだ八木毅^{たけし}特命全権大使をはじめ、林肇次席公使、野田亮二参

事官から歓迎を受け、島村団長は、大使館の協力に対して謝辞を述べる

と共に、日本武道館発行書籍の目録を手渡した。これらの書籍は、インドの日本人会図書館や、日本人学校、その他、日本語・日本文化を学ぶ各機関に配布されること。その後、夕食が振る舞われ、懇談会となった。

◎4日目

■武道演武大会

11月3日、団員は、武道演武大会の会場となるニューデリーのインディラガンジースタジアム（6500

人収容）に、午前11時に到着し、通しリハーサルを行うなどして、午後5時からの本番に備えた。

大会は、午後4時に開場、開会式時点で観客席がほぼ埋め尽くされる大盛況の様相を見せ、定刻、大歓声が沸き起こる中、演武者が入場、最後に島村団長が演武場に立った。

開会式では、最初にシッダールトゥ・ビルラFICCI副会長が歓迎の挨拶を述べ、続いて島村団長が「日本・インドの国交樹立60周年の記念すべき年に、武道代表団がここインドにおいて日本武道の真髄を披露で



会場には 6300 人を超える大観衆が集まった



柔道



合気道



金硬流唐手沖縄古武術

武道演武大会



円心流居合据物斬剣法



空手道



少林寺拳法



銃剣道



瀧川流柔術



相撲

「きることを大変うれしく思います」と主催者挨拶を述べた。次に日印の来賓を代表して、八木毅大使と、オンカル・ケディア青年スポーツ省スポーツ局長が、インドで初めて盛大



島村宜伸団長
(日本武道館常任理事)



八木毅在インド日本国
大使館特命全権大使



オンカル・ケディア青年
スポーツ省スポーツ局長



シッダールトゥ・ビルラ
FICCI 副会長

に開催される日本武道演武大会の成功と、今後ますます日印の文化交流が深まることを期待する旨を、それぞれ祝辞として述べた。このあと、島村団長、各道代表者に花束が贈呈され、演武が始まった。

なお、インディラ・ガンジー元首相の孫で、将来の首相候補と呼ばれる高いラフル・ガンジー氏の突然の来場もあり、インドでの本演武会に対する注目の高さがうかがわれた。

演武始めは弓道。場内が静寂に包まれる中、放たれた矢が的を射抜くと大歓声が上がった。続いて金硬流唐手沖縄古武術、合気道、剣道、空手道、円心流居合拵物斬剣法、なぎ



演武大会・柔道体験の様子

なた、澁川流柔術、少林寺拳法、柔道、銃剣道、相撲の順で演武を行い、次々と展開される迫力ある演武に、観客は魅了され、会場は驚きと興奮で包まれた。特に柔道と相撲では、演武と共に体験も行ったが、子供たちが大きな演武者を相手に奮闘する光景に、盛んに声援や拍手が送られた。

最後に、島村団長が謝辞を述べ、大会は無事に終了。インド側関係者が上気した表情で日本人スタッフと握手を交わしたり、抱き合ったりして大会の成功を喜ぶ姿が見られた。観客もアリーナに降り、団員と記念撮影をしたり、パンフレットにサインを求めるなど、閉会後も興奮覚めやらぬ状況が続いた。

また、開会式前に日本人学校の生徒による「よさこいソーラン節」の演舞、閉会式後には同保護者の有志による「和太鼓」の演奏が行われ、大会に花を添えた。

午後9時から、宿泊ホテルにて、日本国大使館や、日本人学校など、お世話になった方々を招いての打上パーティーが開かれ、演武大会が盛会裡に終了できた喜びを、島村団長以下、団員と共に分かち合った。



◎5日目

■史跡等見学

演武大会翌日の11月4日は、休息を兼ねてニューデリー市内を視察した。インド門・大統領官邸・ガンジー記念館・ヒンズー教寺院などを訪れ、インドの歴史と文化の一端に触れる一日となった。

◎6日目

■デリー警察婦人訓練所でのミニ演武会・ワークシヨップ

11月5日、デリー警察婦人訓練所(Special Police Unit for Women & Children, Delhi Police)にて、約200名が集まる中、各道によるミニ演武会と、柔道・空手道・合気道・少林寺拳法によるワークシヨップを行った。特にワークシヨップでは、20名の女性訓練生が護身の技を中心に体



デリー警察婦人訓練所でのワークショップ
写真は少林寺拳法(左)と合気道(右)

験し、各種目10分間の短時間ではあったが、集中して熱心に練習する姿が印象的だった。閉会式では、スーマン・ナルワ所長より、感謝の言葉と花束が島村団長に贈られ、最後にお茶と軽食のもてなしを受けた。

以上、日本武道代表団としての全ての公式行事を終え、夕刻には市内レストランにて解団式を行った。

◎7・8日目

■帰国

11月6日、インディラガンジー国際空港を午後8時20分に出発した団員は、3時間半の時差を挟んで翌7

日の早朝7時5分に成田国際空港に無事到着、全日程を終えた。

◇おわりに

本事業は、約1年前から準備を開始したが、作業の進展に伴って、ビザ取得の難航、演武用具の事前搬送の不可、現地での演武用具作製など、数々の難問が立ちはだかった。しかし、外務省はじめ、在インド日本国大使館、(株)日本旅行・現地代理店インパック、コーディネーターの中島敬二氏、日本人学校PTA会、日本人会、各道連盟、そして島村団長以下団員の方々など、多方面からのご支援・ご尽力により、成功裡に終わることができた次第である。

演武大会終了後、インド側関係者から「このような演武大会がインドで盛会裡にできたことは奇蹟に近い」や、「準備は本当に大変だったが、素晴らしい演武会で感動した。今度はいつ来るのか」など、喜びの声を頂戴した。様々な重要課題の解決にご支援・ご尽力いただいた全ての方々に感謝申し上げる。

(日本武道館・インド共和国派遣日本武道代表団プロジェクト事務局)

インド共和国派遣

日本武道代表団(敬称略)

◇団長 島村宣伸(日本武道館常任理事、鈴木教秀(団長秘書)

◇コーディネーター 中島敬二(元インド住友商事社長)

◇日本武道館プロジェクト事務局 三好秀明(事務責任者、根本和彦、石井政利)

◇柔道 菅波盛雄(七段)、御嶽知昭(八段)、鉄谷竜三(六段)、田中康紀(六段)、河合秀幸(五段)、仲田直樹(五段)

◇剣道 目黒大作(範士八段)、小島良守(教士八段)、尾野博之(教士八段)、猪狩保光(教士七段)、清野忍(教士八段)、黒瀬有申(教士七段)

◇弓道 土川俊市(教士八段)、竹内明夫(教士七段)、高野直行(教士七段)、河西稔(教士七段)、知念正樹(教士七段)、福島幹子(五段)

◇相撲 本田貴紀(四段)、本田樹輝(参段)、中道健人(参段)、飯田修三(三段)、坪見爽也(参段)、金子尚平(参段)

◇空手道 原口高司(範士八段)、山田繁樹(教士七段)、加藤昇(教士七段)、山田安子(教士七段)、横道正明(錬士六段)、関根寛和(五段)

◇合気道 横田愛明(七段)、森智洋(六段)、鈴木孝次郎(五段)、徳田雅也(二段)、山田圭悟(二段)、石沢伊矩磨(初段)

◇少林寺拳法 杭田要(正範士七段)、佐々木政人(正範士七段)、藤井省吾(正範士七段)、実原史明(准範士六段)、宮本公己(大拳士六段)、石井明仁(大拳士五段)

◇なぎなた 佐藤静子(教士)、熊澤八穂(錬士)、池上佐保子(五段)、千葉小絵美(五段)、木曾春美(四段)、松村ちひろ(四段)

◇銃剣道 中村真彦(教士八段)、小林聡(教士七段)、島田学(教士七段)、上郷栄司(錬士六段)、野藤美由樹(錬士六段)、大野裕美(錬士六段)

◇流川流柔術 吉野明嗣(十二世師範免許皆伝、村井道由(本目録)、五嶋有気(付目録、東英章(中伝)

◇円心流居合据物斬新法 井上孝博(皆伝師範七段)、治田良一(皆伝師範七段)

◇金硬流唐手沖縄古武術 早坂義文(範士九段)、早坂ゆかり(三段)、大村朝洋(錬士六段)、大和久正幸(三段)

◇記録 後閑信弥(株クエスト)

(団長以下総勢71名)

好評発売中



スポーツドクター 辻 秀一 著
四六判・上製・248 ページ

武道やスポーツは「医療である、
芸術である、コミュニケーション
である、教育である」とする筆者が、
指導者のために書いた良きハンド
ブック。ぜひ、ご一読を。



主な目次

- 第1章 「文武両道」の人間教育
- 第2章 真剣勝負を楽しみ、人間的成長を図る
- 第3章 「セルフイメージ」という心のエネルギー
- 第4章 トップアスリートに学ぶ「社会力」
- 第5章 たかが目標、されど目標
- 第6章 「武士道書」に学ぶ
- 第7章 子どもたちの「社会力」を育てる
- 第8章 「オンリーワン」の子どもを育てる

ほんとうの価値の伝え方

武道・スポーツの真髄



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武士道に学ぶ

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）



左から遠藤、中村、佐々木、黒川

遠藤聖大 (日本大) が初のアマ横綱

若手が活躍、8強全てが学生

全日本相撲選手権大会

第61回全日本相撲選手権大会は、昨年12月2日、東京・両国の国技館で開かれた。

決勝では遠藤聖大^{しょうた}四段（日本大）が正代直也参段（東京農業大）を寄り切りで降し、初優勝を果たした。

決勝、遠藤（右）対正代





左から坂元、武田、大道、正代

大会の出場資格は全国規模の大会の上位入賞者。今年は社会人33名、大学生34名、高校生1名の、計68名が出場した。予選は4人1組のリーグ戦で争われ、2勝以上をあげた34名が決勝トーナメントに進出した。

◇予選リーグ

前回優勝の松永^{むとし}六十四（長崎県立猶興館高教）は、木村雄（岐阜県特別支援学校教）に初戦で敗れるも、2つ星を取り返して決勝に進出した。前回2位の丹野圭功^{たんののり}（げんきや整骨院矢巾）は欠場、3位の滝田真（日本体育大）は3勝、中村優太（山口県立豊浦総合支援学校教）は2勝で予選を通過した。

平成24年国体優勝の遠藤聖大^{しょうた}と、学生チャンピオンの経験のある二人、中村大輝（24年優勝・日本体育大）と正代直也（23年優勝・東京農業大）、東日本学生王者の大道久司（東洋大）は、勢いよく全勝で予選リーグを突破した。

◇決勝トーナメント（一～三回戦）

実業団を制した荒木閑賢悟（東洋大戦）は、初戦（二回戦）で高山和

典（アイシン精機）に引き落としで敗退。中村（優）も黒川宗一郎（拓殖大）に引き落としで敗れた。

遠藤は三回戦で松永と対戦。両者廻しを狙うが取れず、突き合いに転じると、遠藤が低い体勢から調子よく突っ張って勝ちをおさめた。

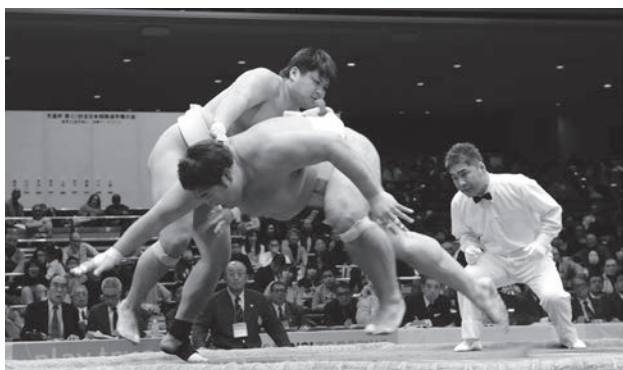
正代は初戦の二回戦で野口清之（日本大）、三回戦で西郷智博（日本大）と対戦し、ともに寄り切りで降した。

中村（大）は三回戦で工藤豪人^{ひでと}（日

本大）と対戦。中村は、工藤の突っ張りを土俵際で堪^{こら}えると、はず押しで東から西へ一気に押し出した。

優勝経験のある富田元輝（和歌山県庁）は、初戦（二回戦）で滝田に押し出して敗退。その滝田も三回戦で大道に送り出して敗れた。

準々決勝に進出したのは遠藤、正代、大道、中村（大）、黒川、武田恭平（拓殖大）、坂元元規（日本大）、佐々木耕大（日本大）。ベスト8には学生だけが残った（大会史上初）。



決勝トーナメント二回戦、高山対荒木閑＝高山（奥）の引き落としが決まる



決勝トーナメント三回戦、遠藤対松永＝遠藤（右）が突っ張りで攻める

■準々決勝

大道久司 ○押し倒し● 武田恭平

互角の立合いから突っ張る大道。武田も押し返す。大道は右に回り込みながら左で下手を取り、武田を浮かせて押し倒した。

坂元元規 ●押し出し○ 遠藤聖大

同じ大学同士の戦い。遠藤が4年、坂元が2年生。坂元は左で下手を狙うが、廻しに届かず。遠藤が左のはず、押しで一氣に押し出した。

中村大輝 ○押し出し● 佐々木耕大

立合い後、佐々木は左で上手を狙う。中村はこれを右でおつつけて防ぎながら押し出した。

黒川宗一郎 ●打っ棄り○ 正代直也

黒川は、右で正代の上手を取り、強引に投げをうつ。一方、正代は左で下手を取って我慢。左四つになり、黒川は寄り切りを狙うが、正代が土俵際で左に打つ棄つて勝利した。



遠藤対坂元＝
遠藤（手前）が押し出す



大道対武田＝
大道（手前）が押し倒して勝利



正代対黒川＝正代（左）が190cm・155kgの黒川に打っ棄りを決める



中村対佐々木＝中村（左）が押し出して勝利

正面玄関前での記念撮影



■準決勝

大道久司 ●寄り切り○ 遠藤聖大

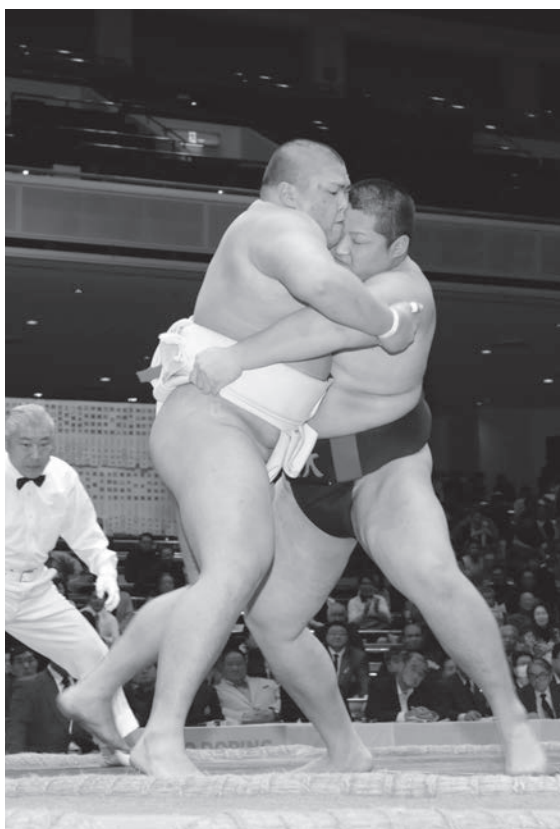
遠藤は立合い低く当たり、右で上手を取る。大道は左で下手を取り、右をおっつけて上手を狙う。そこで、遠藤は左を差して下手を取り、十分な体勢をつくって寄り切った。

中村大輝 ●押し出し○ 正代直也

立合い、勢いよく出たのは中村。正代はこれを右でかちあげる。上体を起こされた中村は、たまたらず左足を引き、叩き込みで反撃を狙うも、正代が構わず前進して押し出した。



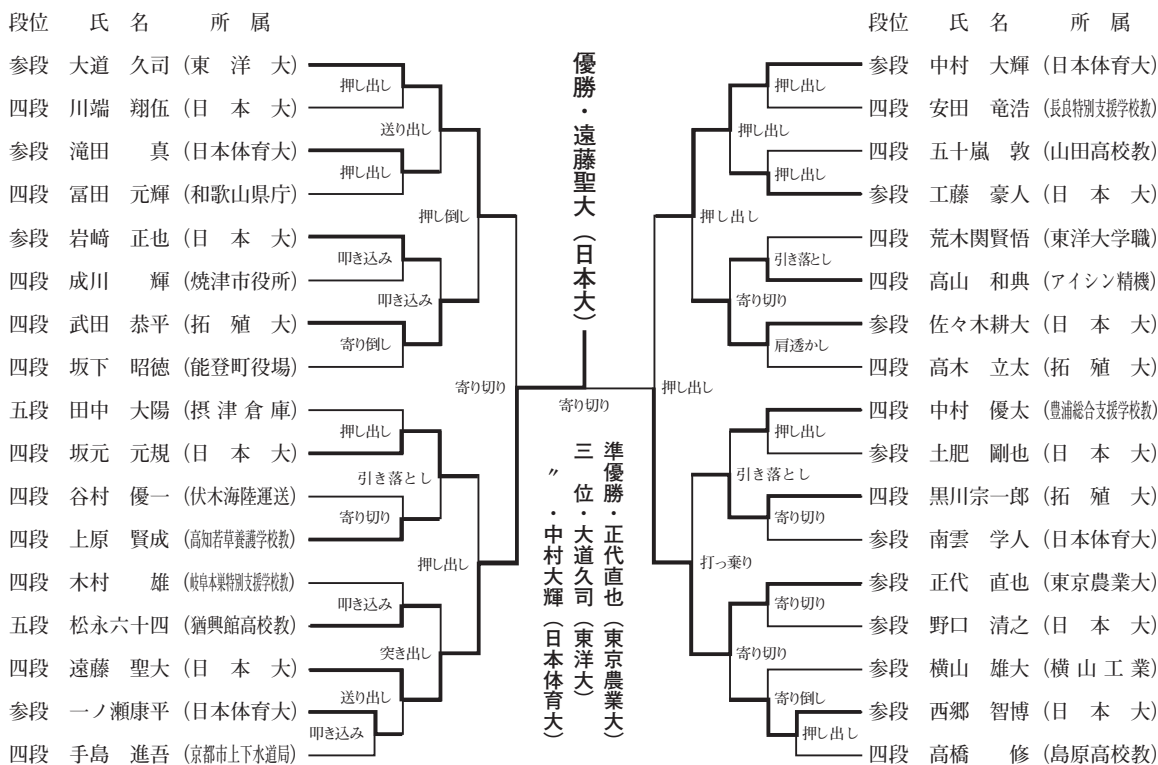
正代対中村＝正代（左）が押し出して勝利



遠藤対大道＝遠藤（右）が大道の廻しを取って寄る

第61回 全日本相撲選手権大会

(決勝トーナメント)



■決勝

遠藤聖大 ○寄り切り● 正代直也

アマチュア日本一を決める大一番。両者片手を着いて長く見合うが立ち合えない。二人が立ち上がると場内は観客の声援で満たされた。

再び見合ってから立合い、まずは遠藤が右で上手を取る。正代は右に回って上手を狙うが、遠藤の上手投げに合い、廻しが取れない。寄る遠藤に、正代は左下手投げを放つ。しかし、遠藤はこれを土俵際で堪えて体勢を立て直し、寄り切った。遠藤は嬉しい初優勝。学生としては同じ大学の先輩である富田元輝以来、3大会ぶりの勝利となった。



遠藤対正代＝遠藤（手前）が寄り切って優勝

優勝者コメント

アマ横綱は、小学生大会に出場していた頃からの憧れ

本大会に出場するためのポイントは選手の中で最も高く、いわゆる大本命が優勝した形になった。大会前には自然と周囲の期待が集まったが、それほどプレッシャーは感じていなかったという。

「11月の学生大会が終わって、背負っていたものがなくなりました」

学生大会では日本大学の主将として出場し、団体戦優勝、個人戦3位の成績をおさめた。役目を果たし、一息ついたところでの出場だった。よほどいい状態だったのだろう。本大会では、

危ないと思った相撲はないと、自ら語った。

「決勝は、思ったとおりの相撲ができました。当たってから、素早く右で浅い所を取って自分の体勢に持ち込むという形です。」

予選が終わって、おにぎりを食べてから力が湧いてきたようです。自分でも「今日はキレてるな。もしかしたら優勝があるな」と思いました」

どことなく余裕のある雰囲気。決勝で立ち合えなかったときは、笑顔をみせた。



遠藤聖大（えんどう・しょうた）

平成2年10月19日生、22歳。180cm、145kg。AB型。小学校1年から相撲を始め、金沢市立西南部中学校、金沢学院東高校を経て、日本大学へと進学。経済学部経済学科に在籍し、現在4年生。大学相撲部では主将を務める。

第67回国民体育大会成年の部優勝、第90回記念全国学生相撲選手権大会団体優勝、個人3位。

「正代選手と見合って、彼の試合での集中力、相撲感の良さを感じ、持っているな」と思いました」

そうこう考えているうちに、見合う時間が長くなってしまったという。両手を着かずに立ち上がってしまったのは、「しびれを切らしたというより、足がしびれてしまったから」と笑った。

昨年まで、一学年上には大相撲に進んだ山口雅弘（現十両・大喜鵬）がいた。今回、その先輩を上回る成績を残し、大相撲幕下10枚目格付出の権利を得た。今後の進路について、報道陣の興味が集まる。

「就職活動はしていません。この大会での優勝は、今日行われていた小学生大会に出場していた頃からの憧れでした。試合に集中するため、今後の進路は考えないことにしていました」

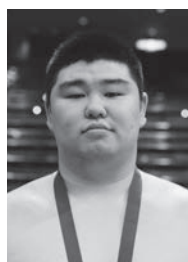
相撲は小学一年生のときから始めたが、辛いことが多かったようだ。

「やめたくて仕方がありませんでしたが、今日優勝して、やっと『続けてよかった』と思えました」

これからのことよりも、これまでのことで気持ちが一杯の様子。

最後に、「こういう結果が得られてほっとしています」と、安堵の表情を浮かべた。

●準優勝Ⅱ正代直也選手(東京農業大)



「やっぱり遠藤さんは強かったですね。一回目で合わない

かったら、自分から手を着こうと思っていました。

全体をとおして押し込まれることはあまりなかったと思います。今年

は怪我もありませんでしたし、一年間の練習の成果が出ました。

結果については、もちろん二位より一位の方がいいです。今、3年生なので、4年になったら、また勝負をかけたいと思います」

◇田中英寿日本大学相撲部監督

「遠藤は地力があります。離れても取れるし、突っぱねた方が安定しています。立合いを厳しくすることが、怪我をしないこと、体を作ることが必要です。

進路については、本人にまかせます。バランスがとれているので、お相撲さんになっても元気にやれると思います。強くならなきやだめですけどね」

JOCジュニアオリンピックカップ 全日本小学生相撲優勝大会

第25回JOCジュニアオリンピックカップ全日本小学生相撲優勝大会は、全日本相撲選手権大会の予選と決勝トーナメントの間に開催された。全国各ブロックの予選で上位の成績をおさめた選手たちが集まり、学年別のトーナメント方式で争われた。

□小学6年生の部

33名が出場した。3年連続わんぱく横綱の當眞嗣斗(沖縄)は、決勝で齋藤大輔(山形)と対戦し、押し出して勝利した。

◎優勝Ⅱ當眞嗣斗選手(沖縄)

180cm 148kgという恵まれた体格と、突き押し相撲で圧倒的な強さをみせた。わんぱく相撲と同じく、本大会でも3連覇を果たした。

「緊張から解放されました。少しゆつくりしたいです。今後は廻しを取ってからの技を覚えたいです。相撲は勝った後の爽快感がいいですね」



6年生の部決勝、當眞対齋藤Ⅱ
當眞(奥)が押し出して勝利した

□小学5年生の部

33名が出場した。前回4年生以下の部で準優勝の小関拓道(青森)は、準決勝で土屋和也(静岡)を寄り切りで降し、決勝で井上太陽(愛媛)と対戦。小関が押し出して勝利した。

◎優勝Ⅱ小関拓道選手(青森)

「優勝できてよかったです。将来は実業団で活躍する選手になりたいです。大相撲よりいろいろな人と対戦できると思うので興味がありません」

□小学4年生以下の部

小学2年生から4年生までの33名が出場した。

前回2年生ながらベスト8まで勝ち進んだ角田虎紀(3年生・三重)は、準々決勝でわんぱく横綱の池田亮(4年生・石川)を寄り切りで降したものの、準決勝で花岡真生(4年生・熊本)に上手投げで敗れた。その花岡は、決勝で永田涼真(4年



6年生の部入賞者Ⅱ右から
齋藤、當眞、石崎、新井



5年生の部入賞者Ⅱ右から
井上、小関、大桑、土屋



4年生以下の部入賞者Ⅱ右から
永田、花岡、向中野、角田

生・静岡)と対戦し、掬い投げで勝利した。

◎優勝Ⅱ花岡真生選手(熊本)

「一回戦で体の大きな相手と試合をして、掬い投げを決めました。すごく気持ちよかったです」

◎3年生でベスト4進出Ⅱ

角田虎紀選手(三重)

「悔しいです。強い相手でした。週2回、3時間練習をしています。将来は横綱になりたいです」

【大会結果】

□小学6年生Ⅱ①當眞嗣斗(沖縄)

②齋藤大輔(山形)③石崎涼馬(大阪、新井有里(東京)

□小学5年生Ⅱ①小関拓道(青森)

②井上太陽(愛媛)③土屋和也(静岡、大桑元輝(静岡)

□小学4年生以下Ⅱ①花岡真生(熊本)

②永田涼真(静岡)③向中野真豪(三重)、角田虎紀(三重)

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法などなごた銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道

日本武道館 編

好評発売中!

日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」英訳文）（ごも武道憲章）
カラー口絵（日本武道館、9武道・10武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武道から武道へ…………… 菅野寛明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え：村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力…………… 大保木輝雄 埼玉大学教授

第5節 学校武道の歴史…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学 ① 国際武道大学 ② 国士館大学
③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学
⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十歩の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………
(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。



(B5判・236頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



相撲は4名の先生方を紹介

武道各種目の概要を見開きで解説

塔尾武夫 現代相撲かくあるべし 下村勝彦 静岡焼津 さかなの町のわんぱく力士
住吉和則 相撲好き遺伝子を守る! 安井和男 先輩部長が育てる侍力士

現役最後の試合で有終の美

——松久功

第40回全日本空手道選手権大会



男子個人組手決勝＝松久（右）の上段突きが決まる

内閣総理大臣杯第40回全日本空手道選手権大会（主催Ⅱ全日本空手道連盟）は12月8日に男女団体予選が東京武道館で、9日に男女団体決勝および男女個人組手、形が日本武道館で行われた。

男子個人組手は松久功（実業団）と荒賀龍太郎（前年度優勝）が奇しくも昨年と同じ決勝で顔を合わせ、今年は松久が一矢報いて、自らの引退に華を添えた。

女子個人組手は小林実希（前年度優勝）が決勝で世界選手権・68kg級王者の染谷香予（学連）を破り、3連覇を果たした。

男子個人形は3連覇を目指した大木格（前年度優勝）を決勝で破った喜友名諒（学連）が見事なスーパーリンベイで初優勝を飾った。

女子個人形は11月の世界選手権優勝の宇佐美里香（前年度優勝）が盤石の形を披露して、全試合5―0で4年連続5回目の優勝を果たした。

男子団体組手は京都府が5連覇。女子団体組手は東京都が2年ぶり4回目の優勝を飾った。

組手は男子3分、女子2分で行わ

男子個人組手

荒賀 龍太郎 (前年度優勝)	3	優勝 松久 功	8	渡 邊 大 輔 (東京都)
佐々木 廉太郎 (宮城県)	1	2	2	川 崎 紘 輝 (静岡県)
篠 原 浩 人 (大阪府)	1	1	0	谷 竜 一 (京都府)
香 川 幸 允 (東京都)	0	2	2-0	松 久 功 (実業団)
		4	2-2	



男子個人組手準決勝＝松久（上）対渡邊



男子個人組手準決勝＝荒賀（右）対篠原

昨年（前年度優勝）は序盤を順当に勝ち上がると、準々決勝では佐々木廉太郎（宮城）と対戦し、3―1でこれを退けた。続く準決勝では篠原浩人（大阪）と当たった。開始直後、篠原にカテギリ2の忠告が与えられる。遠回から狙う両者、試合が動かず、残り1分になってようやく動く。荒賀が篠原の上段突きを躲（かわ）して上段突きに返して有効を奪う。直後、つかみ合う

男子個人組手

れ、決勝は男子4分、女子3分で行われた。時間内であっても8点差がついた場合はそこで試合終了とし、棄権、反則、失格の場合も同様。形は1、2回戦は指定形から、準決勝以降は得意形から選ぶ。

反則で荒賀に忠告、篠原に警告が与えられ、2―0で荒賀が決勝進出を決めた。

一昨年の覇者で昨年準優勝の松久功（実業団）は準々決勝で谷竜一（京都）と対戦。序盤に松久が先制するも谷が追いつく。さらに松久が上段突きで有効を奪ったが、終了ブザーと同時に松久に警告が与えられ、試合は振り出しに。再試合では松久が上段突きを重ねて谷を降した。準決勝では渡邊大輔（東京）を相手に上段突きが重ね、4―2で破って3年連続で決勝の舞台へ。

決勝は昨年に引き続いて松久対荒



試合場を降りる松久は深々と座礼をした

賀。10月の国体の決勝でも対戦している両者だけに、互いの手の内を知り尽くしており、間をはかり合う静かな立ち上がりとなった。

先に火を噴いたのは松久の右上段蹴り。荒賀は左腕でこれを凌ぐ。対する荒賀は松久の出端を捉えて上段を突くが、これが松久の顔面に直撃。松久は床に崩れ落ち、荒賀に警告が与えられる。

中盤、松久の中段突きに荒賀が上段突きを合わせて有効を奪い、ポイントで並ぶ。終盤、松久が荒賀を倒して上段に突く。綺麗に決まったかに見えたが、これはポイントにならない。残り6秒、互いの上段突きが交錯。旗は松久に上がり、荒賀は万事休す。松久が2年ぶり4度目の優勝を果たした。

●優勝Ⅱ松久功選手（実業団）

松久は今年限りで現役を退くことを早々に表明。この大会を現役最後の大会として臨んだ。

「いろいろな人に支えていただき感謝の気持ちでいっぱいです」

今年10月の国体で準優勝。11月の世界選手権75kg級にも出場して、3位入賞を果たした。

「このところ大きな大会が続いて、その全てにピークを持つてくるのが大変でした。なんとか有終の美を飾れてよかったです」

試合場から降りる際には膝を着き、深々と座礼をした。

「やはり武道は『礼に始まって礼に終わる』ですから、大会前からそうやって降りようと決めていました」
今後は空手道の指導にあたっていくという。

「僕だけで終わってしまったては意味がないですから、後輩たちにアドバイスして、いろいろ伝えていきたいと思います」

全日本選手権で初めて入賞したのが10年前。以降、優勝4回、準優勝4回と抜群の安定感で日本の空手道界を引っ張った男が戦い終えた。

●準優勝Ⅱ荒賀龍太郎選手（前年度優勝）

「特に調子が悪いということはないかなって感じですけど……。世界選手権が終わって2週間でこの大会ですから、モチベーションを維持するのに苦労しました。しかしそれは世界選手権に出た人全員がそうなので言い訳になりません。松久先輩の最後の試合の相手になれてよかったです」

■女子個人組手

3連覇を目指す小林実希（前年度優勝）は初戦の2回戦を突破すると、3回戦では帝京大の後輩、金子悠里（静岡）を6―0で降す。準々決勝でも後輩の岡本奈菜（徳島）を破ってベスト4へ。準決勝は帝京大の後輩で11月の世界選手権で3位入賞を果たした植草歩（学連）と対戦し、1―0で退けた。

決勝の相手はこれも後輩の染谷香予（学連）。昨年と同じ顔合わせになった。試合は小林の左右連続の上段突きで火蓋が切って落とされた。染谷はこれをいなして左の上段突きを返す。小林が凌いで詰まった間合から投げに転じるが決まらない。中盤、間合をはかる両者が同時に上段突きに飛び込むと一瞬早かった小林に有効。小林がこのリードを守り、見事大会3連覇を達成した。

●優勝Ⅱ小林実希選手（前年度優勝）

三連覇の道のりは、厳しく険しいものとなった。茨の道だった。「3回戦からすべて帝京大の後輩との対戦でした。うちの子たちはみんな強いのできつかったです。すべてが山場でしたね。やっぱり先輩だ



女子個人組手決勝＝小林（右）の上段突きが一瞬早く、有効を奪う

し、一緒に稽古しているので、後輩には負けたくないと思いました」

決勝の相手は昨年と同じ染谷。

「本当に負けたくないという気持ちでした。決めた上段も覚えていました。体が勝手に反応して、自然に手が出ていました」

3連覇を果たした小林も引退の二文字が頭に浮かぶ。

「今は自分のすべてを後輩に教えた

いという思いが強くなります。まだ現役なので教えてはいますが、すべてをさらけ出してまではいません。そんな自分が嫌なんです」

指導者と選手の狭間で揺れる小林だった。

●準優勝Ⅱ染谷香予選手（学連）

「今日一日、全力でできて楽しかったです。小林先輩とは去年も1点差ではありましたが圧倒されました。今日は思い切りできました」

染谷は世界選手権で優勝し、世界王者としてこの大会に臨んだ。

「周りは『世界大会に優勝してるから余裕だよ』と言いますが、私は挑戦者なので、一つ一つと思って臨みました。ずっと努力を続けてきた小林先輩をみて、自分ももっとたくさん練習しようと思っています」

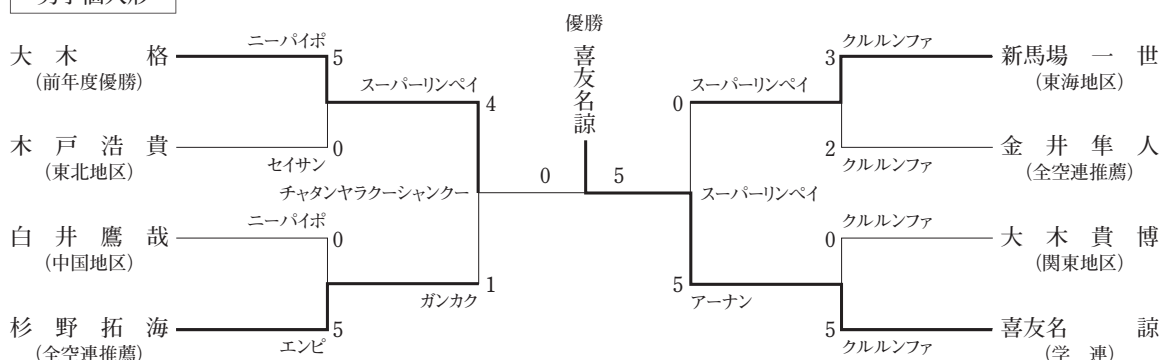
■男子個人形

勝てば3連覇の大本格（前年度優勝）は決勝進出。対するは準決勝で国体優勝の新馬場一世（東海）を破った喜友名諒（学連）。大木はチャタンヤラクーシャンクー、喜友名はスパーリンペイを演武。旗は喜友名に5本揃って、初優勝を決めた。

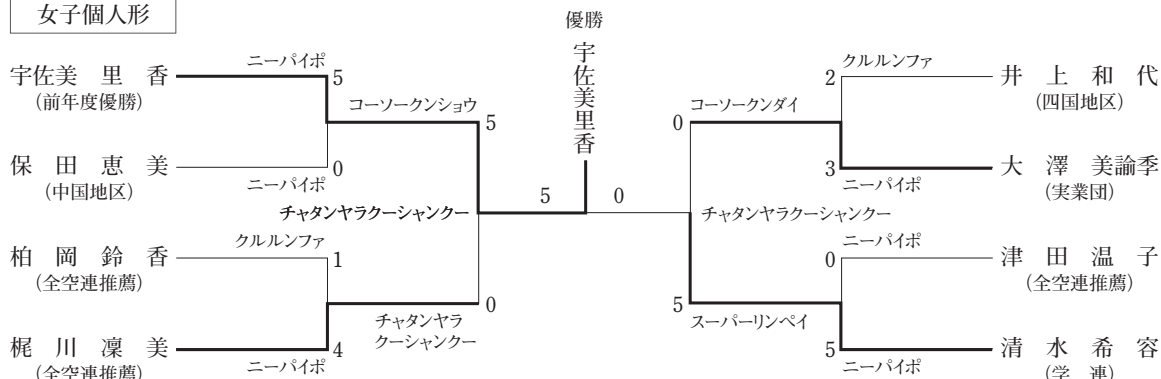
女子個人組手

小林 実 希 (前年度優勝)	1	優勝 小林 実 希	1	東 菜 (長崎県)
岡 本 奈 菜 (徳島県)	0	1	0	永 島 亜 純 (宮崎県)
植 草 歩 (学 連)	6	0	1-1	染 谷 真 有 美 (茨城県)
五 明 真実子 (神奈川県)	0	3	1-5	染 谷 香 予 (学 連)

男子個人形



女子個人形



●優勝Ⅱ喜友名諒選手(学連)

「普段教えていただいている劉衛流の佐久本嗣男先生や大学の仲間、家族など周りの方々に感謝しています。演武をしているときは戦っているつもりでやっているの、一戦一戦全力で戦いました。今できる思い切りの演武ができました」

●準優勝Ⅱ大木格選手(前年度優勝)

「悔しいですけどまた練習して出直します。ミスもありましたが今の出来としてはよかったです。自分



男子個人形決勝＝喜友名諒(スーパーリンベイ)

分自身の甘い心が出たので、それがわかったのは収穫です。もう一度心を鍛え直します」

■女子個人形

4連覇がかかる宇佐美里香(前年度優勝)は世界選手権優勝の実績を引っさげて凱旋試合。圧巻の演武で5―0を連発。決勝では清水希容(学連)とのチャタンヤラクーシャンク1対決を制し、見事に4年連続5回目の優勝を果たした。



女子個人形決勝＝宇佐美里香
(チャタンヤラク・ジャンクウ)

●優勝Ⅱ宇佐美里香選手(前年度優勝)

「世界選手権の後、この大会があるので喜ぶ暇がありませんでした。しかし気持ちを切りさずに臨めました。もつと自分自身を磨いて、人に勇気を与えられるような人間になりたいと思っています」

●準優勝Ⅱ清水希容選手(学連)

「昨年は高体連で出て初戦敗退でした。今年は決勝まで進むのが目標だったので嬉しいです。昨年まではチャカチャカしていましたが、今年はだいぶ冷静にできたと思います」

■男子団体組手

5人制で行い、勝者数で勝敗を決める。同点の場合はポイント数で決した。

団体戦が始まって以来負けなしの

京都府。今年も決勝に進出し、東京都と対戦。京都の先鋒・荒賀龍太郎は東京の香川幸允とスコアレスドロ1。次鋒、中堅も引き分けて、副将は京都が谷竜一、東京が渡邊大輔。序盤から谷がポイントを重ね、終盤に渡邊が詰め寄るも4-3で京都が先制。大将戦は京都が荒賀慎太郎、東京が飯村涼太。荒賀(慎)は巧みな試合運びで2ポイントを奪って逃げ切り、京都府が5連覇を達成した。

●優勝Ⅱ逢坂匡一監督(京都府)

「メンバーの実力は東京都の方が上だと思ったので、オーダーを工夫したら、これがはまりました。先鋒の龍太郎には勝ってほしかったですが次鋒、中堅がよく耐えてくれたと思います。副将、大将まで来ればこっちのものだと思いました。よう頑張ってください」

■女子団体組手

3人制で行い、勝敗は男子と同じ方法で決めた。

昨年4回目にして初めて頂点を奪われた東京都が復権をかけて千葉県との決勝へ。東京都は先鋒の宮原美穂と大将の山田沙羅が高校生。中堅

に個人3連覇の小林実希を置く布陣。

先鋒戦は引き分けて、中堅戦。小林が千葉の田口聡珠を相手に後半、ポイントを連取。2-0で勝つと、大将の山田はテンポ良くポイントを稼ぎ、8-1の大勝。東京が2年ぶり4度目の優勝を果たした。

●優勝Ⅱ山口貴史監督(東京都)

「力を出し切れれば優勝できるチームでした。高校生の二人は小林がいることで安心して力を出せたと思います。前で何があっても止めてもらうために小林を真ん中に置きました。しかし、今日は高校生二人に勢いがあって、そのまま優勝した印象です」



男子団体組手副将戦＝谷(右)が上段突きを決める

【大会結果】

■組手

▽団体

○男子Ⅱ①京都府②東京都③長崎県、大阪府

○女子Ⅱ①東京都②千葉県③大阪府、京都府

▽個人

○男子Ⅱ①松久功(実業団)②荒賀龍太郎(前年度優勝)③渡邊大輔(東京、篠原浩人(大阪)

○女子Ⅱ①小林実希(前年度優勝)②染谷香予(学連)③植草歩(学連)、東世菜(長崎)

■形

○男子Ⅱ①喜友名諒(学連)②大木格(前年度優勝)③新馬場一世(東海、杉野拓海(全空連推薦)

○女子Ⅱ①宇佐美里香(前年度優勝)②清水希容(学連)③梶川凜美(全空連推薦)、大澤美論李(実業団)



女子団体組手優勝＝東京都

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光 日本武道館会長

唐手から空手へ

金城 裕

日本武道館

(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手^{からて}の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出会い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

(四六判・上製・372頁)

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授 菅野 純 著



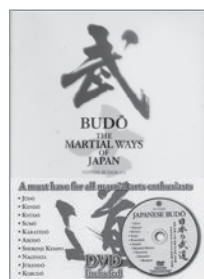
臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

(四六判・上製・410頁)

BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

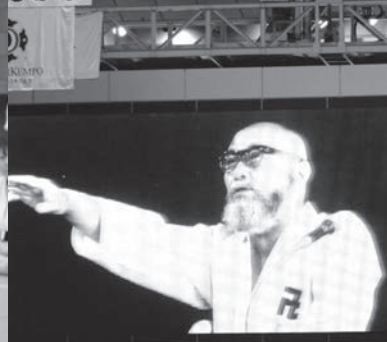
大先輩に聞く

月刊「武道」記者 田谷将俊 著



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)



少林寺拳法創始者宗道臣生誕 100 年記念

2012年少林寺拳法全国大会 in かながわ

創始者・宗道臣の「志」を再確認

少林寺拳法創始者宗道臣生誕100年記念2012年少林寺拳法全国大会は、昨年の12月2日、横浜市・横浜国際プールで開催された。

本大会は、本来、少林寺拳法の創始者・宗道臣の生誕100年を迎えた2011年に開催予定であったが、東日本大震災の影響により、延期を余儀なくされ、一年越しの開催に至った。

大会は、競技の部13種目及び、発表の部8種目の計21種目で行われ、全国各地の大会で出場資格を得た2370名の拳士が出場、5500名の観衆が集う中、日頃の修練の成果を披露した。

当日、会場となる横浜国際プール・メインアリーナの入口付近は、午前8時の開場を前に、出場拳士ほか関係者によって溢れかえり、開場と同時に観客席は、ほぼ満席となった。

午前9時、開会式が始まり、はじめに新井庸弘少林寺拳法連盟会長が、前年度開催予定であった本大会が、東日本大震災の復興支援に組織を上げて取り組むために延期となった旨を説明したあと、「少林寺拳法



開会式の様子

は、1947年に、開祖・宗道臣先生が、人づくりによる国づくりを目的に創始され、今年で65周年を迎えました。創始者生誕100年を契機に、私たちは、開祖の「志」を再確認し、受け継いで、皆が安心して安全に暮らせる社会をつくっていくようではありませんか」と挨拶を述べた。

次に、松田良昭大会副会長（神奈川県少林寺拳法連盟副会長・神奈川県議会議員）が、本大会の主管連盟



一般男子五段以上の部・最優秀＝福家健司（奥）・麻田育弘組（東京）



一般男子四段の部・最優秀＝津馬清志郎（左）・渡辺龍組（大阪）



一般女子三段以上の部・最優秀＝高橋育恵（左）・堀尾愛組（東京）



笠 浩史
文部科学副大臣



新井庸弘
少林寺拳法連盟会長



松田良昭
大会副会長

として歓迎の言葉を述べ、続いて、
神奈川県出身の笠浩史文部科学副大臣が、今年度、中学校授業で武道が
必修化になったことを念頭に、「特
に少林寺拳法を通じて身に付けたも

■競技（本選）

本大会では、全21種目を、競技と
発表の部に分けて、それぞれ予選な
しの本選のみを、20コートで一斉に
行った。

競技の部は、一般男子五段以上の

のを日本のために活かしていただき
たい」と、出場拳士たちを激励した。
このあと、コート準備が整えられ、
競技（本選）開始となった。

部以下13種目の演武が行われ、鋭い
気合や、素早い正確な技、重量感溢
れる迫真の演武が随所で観られた。

発表の部は、演武6種目と、運用
法（防具着用立合評価法）2種目
が行われ、なかでも親子や夫婦の部
の演武は、緊張感の中にも、家族と
共に組める喜びや楽しさを感じら
れ、競技の部の迫力とはまたひと味
違った少林寺拳法ならではの魅力を
醸し出していた。



発表の部は、その場で賞状が手渡された



一般団体の部・最優秀＝東京（杉本健一・他）

また、運用法は、攻撃や反撃のポイント制だけではなく、「拳（けん）棒（ぼう）一如」の観点から、攻防の動き、足捌（さば）きや体捌き、技術の修練度、戦術、礼儀作法といった、総合評価で行われ、注目を集めていた。

各競技が終了すると、昼休みを挟み、アトラクション、記念式典へと続いた。

■アトラクション

最初に神奈川武専の有志による「錫杖（しゃくじょう）演武」が披露され、法衣（ほふえ）を纏（まと）ってアリーナに広がった拳士たちの勇壮な姿と、錫杖を使ったダイナミックな演武に、観衆は魅了された。

■アトラクション

続いて、関東学院マーチングバンドによる「ドリル演奏」が披露され、洗練された音と華麗なパフォーマンスに、会場中から惜しみない拍手が送られた。

続いて大会役員や来賓の挨拶へと移り、はじめに河野洋平大会会長（神奈川県少林寺拳法連盟会長・元衆議院議員）が、「創始者の志を再確認し、初心を忘れずに全国の仲間と共に少林寺拳法の目標に向かって精進する

魂（こん）行（ぎょう）を経て、代表演武として防衛大の学生が団体演武を披露した。

次に、生誕100年を記念して製作された映像、「宗道臣の志」が約17分間、場内のスクリーンに上映された。映像が終わると、アナウンスで、「創始者・宗道臣の志」は、私たちの心の中に脈々と受け継がれ、後世へ継承していく務めがあるのではないでしようか」と呼びかけた。



神奈川武専有志による「錫杖演武」

ことを期待します」と主催者を代表して挨拶を述べた。

来賓祝辞では、まず、黒岩祐治（くろいわ ゆうじ）神奈川県知事が神奈川県を代表して歓迎の言葉を述べ、次に中華人民共和国駐日本国大使館公使の韓志強（カンシキョウ）氏が、程永華（テイエイカ）特命全権大使の祝辞文を披露した。また、甘利明（かんりあきら）自由民主党政務調査会長（神奈川県少林寺拳法連盟顧問・衆議院議員）が、自民党政権時に教育基本法が改正されたことなどを踏まえ、「宗道臣先生が説かれた人の道は日本の教育にしっかりと息づいています」と挨拶を述べた。

最後に、宗由貴（そうゆき）少林寺拳法第二世



関東学院マーチングバンドによる「ドリル演奏」



宗 由貴
少林寺拳法グループ総裁



甘利 明
自由民主党政務調査会長



韓 志強
中華人民共和国駐日本国大使館大使



黒岩 祐司
神奈川県知事



河野 洋平
大会会長

会場のロビーには、創始者・宗道臣の愛用品と写真が展示され、愛用品は、東日本大震災復興支援のため、オークションに掛けられた



鎮魂行

師家・少林寺拳法グループ総裁が挨拶に立ち、本大会の前日に開催された「家族大会」に触れ、神奈川県連の様々なアイデアによって少林寺拳法らしく清々しい大会となったことに感謝の言葉を述べた。そして、「開祖の志」とは、人の役に立つ自分になることです。少林寺拳法の修練で得た自信と勇気と行動力を、人や社会に役立たせてください。昨年の東日本大震災では想像を絶する被害が出ていますが、まだ解決に至っていません。私たちが助けを必要

としている人たちの中に今できることは、今しかできません。そのための『自己確立』です。ぜひ、この大会を通して得た自信を明日からの皆さんの生活に役立ててください。そして、もう一度、東北の被災地に力を貸してください。開祖は人

に役立つ人を育てたくて少林寺拳法を始めました。今では、世界37カ国に広がり、多くの方々が開祖の志を胸に抱き、そして自分の志として少林寺拳法を自分の人生のために役立っています。ぜひ、皆さんも自分の人生に役立つ少林寺拳法でありましよう、これからも精進を続けてください」と激励した。

このあと祝電披露を終えると、サブライズが続ぎ、まず、スクリーンに創始者・宗道臣が現れ、感謝の言葉を述べた。次に、神奈川県連盟から宗総裁へ、生誕101年へ向けて、赤いバラ100本と白いバラ1輪が手渡されると、会場から拍手が沸き起こった。

引き続き、「被災地からのメッセージ」を前に、スクリーンに東日本大震災の津波の映像が映し出されると、再び場内は厳肅な雰囲気となった。そして、少林寺拳法グループのこれまでの復興支援活動に対する感謝の気持ちを、被災地の拳士を代表して、岩手高田道院拳友会の太田千秋拳士と、熊谷玲佳拳士がメッセージを読み上げた。そして、五日市周三岩手県少林寺拳法連盟理事長が感



「創始者・宗道臣愛用品復興支援オークション」で得た協力金が、浦田武尚少林寺拳法グループ東日本大震災復興支援本部本部長（右）へ手渡された



五日市周三岩手県連盟理事長と岩手高田道院拳友会の太田千秋拳士（左）と熊谷玲佳拳士（右）

謝の挨拶を述べ、宗総裁に陸前高田市で流された7万本の松の木から作ったレリーフがプレゼントされた。

最後は、本大会で実施の「創始

者・宗道臣愛用品復興支援オークション」で得た協力金が、浦田武尚少林寺拳法グループ東日本大震災復興支援本部本部長へ手渡され、式典は終了した。

■優秀地域演武・成績発表

成績発表を前に、特別企画として優秀都道府県による、一般男子五段以上・一般男子四段・一般女子三段以上・一般男女有段・一般男子初段の優秀演武が披露され、大変な盛り上がりを見せた。なお、優秀地域は、開催県の神奈川のほか、本選の競技種目上位8位までのポイント合計によって、東京、静岡、大阪、兵庫、和歌山の5地域が選考され、演武終



佐藤一司
神奈川県連盟理事長



吉田秀樹
大阪府連盟理事長

■閉会式

閉会式では、主管の神奈川県少林寺拳法連盟から、本大会開催に当たりアドバイスをいただいた新井少林寺拳法連盟会長へ感謝の意を込めて、達磨大師の掛け軸と花束が贈呈された。

続いて、神奈川県連盟から、来年度の世界大会の主管となる大阪府連盟ハバトンが手渡され、吉田秀樹大阪府少林寺拳法連盟理事長が、来年



一般男子五段以上の部・最優秀
＝福家（左）・麻田組（東京）



一般女子三段以上の部・最優秀
＝高橋（右）・堀尾組（東京）



一般男子四段の部・最優秀
＝津馬（右）・渡辺組（大阪）

度の世界大会への意気込みを語るなど、アピールを行った。
最後に、本大会実行委員長の佐藤一司神奈川県少林寺拳法連盟理事長が、声高らかに謝辞を述べ、大会は盛会裡に幕を閉じた。

◎入賞者コメント

○一般男子五段以上の部・最優秀

▽福家健司七段

「全国大会での最優秀は初めてで、とても嬉しいですね。今日は年齢を考えるとベストのコンディションでした」

▽麻田育弘五段

「恩師の先生に、やっと一つ恩返しができるように、頑張ります」

きたと思います。来年も世界大会に出場できるように、頑張ります」

○一般男子四段の部・最優秀

▽津馬清志郎四段

「全日本学生大会では予選通過もできずに、その悔しさから、今大会で最優秀を獲ろうと誓いました。今後も頑張ります」

▽渡辺龍四段

「感無量です。目指してきた賞をやっとなにすることができました。来年は、世界大会でも羽ばたきたいです」

○一般女子三段以上の部・最優秀

▽高橋育恵三段

「これ以上ないので、夢が叶って堀尾に感謝です。次は堀尾と組めるか分かりませんが、また、新たな気持ちで頑張りたいと思います」

感謝です。次は堀尾と組めるか分かりませんが、また、新たな気持ちで頑張りたいと思います」

○堀尾愛三段

「高橋先輩と組むのは最後かも知れなかったのですが、有終の美が飾れた感じで良かったです。先輩と組んでいただけで、本当に良い1年間でした」

【大会結果】

■競技の部

- ▷一般男子五段以上の部＝①福家健司・麻田育弘（東京）②河野孝一・奥本好一郎（広島）③尾崎嘉昭・内田智之（埼玉）④山本学・尾西正嗣（福岡）⑤増井友哉・増井献都（神奈川）⑥榎本武輝・土屋裕嗣（千葉）⑦中田勇輝・佐藤史典（兵庫）⑧尾崎直人・桜井健弘（愛知）
- ▷一般男子四段の部＝①津馬清志郎・渡辺龍（大阪）②中村孔明・中村康仁（全日本実業団）③田淵貴寛・田淵雅敏（大阪）④大西清文・栢谷典介（兵庫）⑤秋元宏介・松尾裕太（東京）⑥多養賢平・久保風悟（東京）⑦島袋幸太・関本悠馬（愛知）⑧瓜本久貴・中本悟史（兵庫）
- ▷一般男子三段の部＝①新井椋大・金森翔吾（東京）②瀧井颯人・岡崎雄悟（大阪）③盛満昭彦・重松翼（神奈川）④黒柳聖吾・小峯稔也（京都）⑤妙中英人・牧野諒（和歌山）⑥鈴木勇気・佐藤大祐（宮城）⑦伊藤久寛・林英治（愛知）⑧中條一樹・村田瞭（大阪）
- ▷一般男子二段の部＝①千葉周平・成田樹（宮城）②友井啓了・藤川裕太（東京）③坂本拓哉・山本翔一（京都）④中村理宏・久岡勇輝（岡山）⑤森脇勇貴・門大貴（和歌山）⑥金親優希・小森勇輝（千葉）⑦下山祥来・尾崎正典（兵庫）⑧高橋快・谷口尊信（大阪）
- ▷一般男子初段の部＝①永井颯・森谷祐太郎（宮城）②松田拓也・森上雄也（神奈川）③藤田豊・岡田東馬（静岡）④柳田佳祐・江崎颯利（栃木）⑤萩原雅樹・脇村勇輝（大阪）⑥吉原健人・野田弘泰（福岡）⑦陰山慶太・山岸司（埼玉）⑧笠原翔太・杉山悠太（兵庫）
- ▷一般女子三段以上の部＝①高橋育恵・堀尾愛（東京）②高嶺采包・松田結夏（大阪）③鈴木里菜・山本郁（東京）④田邊理菜子・石井紗織（新潟）⑤遊作麻唯子・栗田佳織（神奈川）⑥川崎公美子・柴田加奈子（京都）⑦南愛・岩室英里（兵庫）⑧小林千詩・原綾那（京都）
- ▷一般女子二段の部＝①畔蒜みく・福岡真理（東京）②山口詩織・箕輪萌香（東京）③矢野紅音・村上菜実子（和歌山）④田中涼香・幣圭奈子（大阪）⑤磯部里菜・林理恵子（京都）⑥中川真帆・中田早紀（兵庫）⑦松原瑞季・竹歳さくら（兵庫）⑧石井くるみ・石井なるみ（東京）
- ▷一般女子初段の部＝①西山亜由美・米島千尋（和歌山）②田中沙也加・中西知里（大阪）③竹本桃・岡田理沙（静岡）④西野裕理・西野ちはる（愛媛）⑤池田百合香・満田千智（滋賀）⑥笠松詩織・三膳未咲貴（宮城）⑦笠井桃湖・藤田春奈（神奈川）⑧五十嵐風月・岩倉華子（新潟）
- ▷一般男女有段の部＝①酒井仙次・御厨文子（長崎）②下村周平・宇山友季子（大阪）③黒田圭介・田村知華子（福岡）④山井佑介・吉岡理佳（東京）⑤平野翼・長谷川未来（兵庫）⑥宮崎真由美・大塚学（岩手）⑦梅林朱梨・川上博也（東京）⑧小澤晴太・中曾のぞ美（埼玉）
- ▷男子中学生の部＝①大城浩司・宮迫汰一（大阪）②浮田龍・井上日和（岡山）③青木賢祥・佐藤佑亮（北海道）④野澤鉄郎・岩永玲旺（佐賀）⑤後藤拓真・阿部旭秀（宮城）⑥久保田将聖・鳴海洗楓（宮崎）⑦山田葵・大西彪雅（香川）⑧木村友之・伊藤優太（愛知）
- ▷女子中学生の部＝①笹川理菜・山本瀬菜（大阪）②水浪まどか・道根綾乃（和歌山）③塚本えりか・松本紫音（福岡）④田中万琴・荒井流風香（東京）⑤斎藤桃花・石崎美寿輝（北海道）⑥安井愛恵・川合亜季（愛知）⑦千野佐紀子・住永由希（福岡）⑧森川雪乃・森川春菜（京都）
- ▷一般団体の部＝①東京（杉本健一・他）②神奈川（仲矢光希・他）③東京（日野翔太・他）④埼玉（川島直史・他）⑤和歌山（井関登士彦・他）⑥京都（中村太亮・他）⑦香川（重蔵怜志・他）⑧静岡（飯尾峻平・他）
- ▷中学生団体の部＝①兵庫（三宅歩・他）②福岡（濱口琢己・他）③東京（内田杏香・他）④佐賀（小野圭一朗・他）⑤大阪（村上達哉・他）⑥福岡（八嶋拓希・他）⑦静岡（小田実佳・他）⑧広島（三好将貴・他）

■発表の部

- ▷小学生の部＝①堀見一生・山岸大暉（大阪）②福地将平・金子佑哉（神奈川）③若原健太・山中俊輝（愛知）④塚田康生・土田龍（北海道）⑤山本遥風・井手万裕（福岡）⑥田中優葵・山口玲緒（佐賀）⑦中川菜・苅郷咲新（滋賀）⑧佐藤駿平・石崎勝美（宮城）
- ▷男子マスターズの部＝①森川和仁・森川弘仁（京都）②大上秀樹・野辺耕一（東京）③杉本憲昭・江草英治（福岡）④出口弘一・長友賢秀（宮崎）⑤磯部竜太郎・横山浩一（新潟）⑥村上正泰・高倉春治（愛知）⑦鈴木幸典・鈴木伸治（宮城）⑧安楽吉雅・安楽義美（大阪）
- ▷女子マスターズの部＝①高木ますみ・前唄千恵（三重）②川畑ミチル・斎藤昌美（東京）③片庭美穂・大竹真有（大阪）④両角いずみ・堀内紀子（長野）⑤明石直美・鍵山昭子（岡山）⑥渡部純子・木村恵美子（鳥取）⑦片岡真理子・藤野睦（愛知）⑧長谷川明子・岡本奈弓（静岡）
- ▷親子の部＝①古谷貴紀・古谷大貴（大阪）②森本栄治・森本将太（兵庫）③河原章二・河原真二（奈良）④清水一志・清水奈奈（千葉）⑤斎藤政実・斎藤慧大（静岡）⑥川手啓史・川手紅梨子（北海道）⑦千葉和仁・千葉悠天（岩手）⑧荒井英俊・荒井美海香（東京）
- ▷夫婦の部＝①佐久間未来・佐久間舞（愛知）②藤井光広・藤井愛希（兵庫）③高橋正太郎・高橋春香（秋田）④渡邊謙一郎・渡邊有美（岡山）⑤佐野晋一・佐野弘美（静岡）⑥神木紀之・神木季代（東京）⑦永井巖・永井京子（鳥根）⑧柴田徹・柴田理加子（福岡）
- ▷小学生団体の部＝①滋賀（若林智哉・他）②静岡（佐野太星・他）③福岡（河根拓希・他）④兵庫（竹内彬・他）⑤秋田（江畑仁智・他）⑥大阪（重里大樹・他）⑦岡山（高田奈月美・他）⑧熊本（永田竜盛・他）
- ▷男子運用法の部＝①木下恵太・渡邊陽樹（東京）②森脇大輔・森脇大貴（大阪）③山田健二郎・藤井大輔（福岡）④小山貴史・古川謙吾（京都）⑤小林格・椋本祥太（兵庫）⑥玉井英人・奥田隆史（奈良）⑦磯畑良太・堀見銀矢（山口）⑧尾崎安展・菅野和視（千葉）
- ▷女子運用法の部＝①吉田千品・久保文乃（兵庫）②中村絵梨香・金子志帆（東京）③岡崎有里乃・長谷川遥香（福岡）④福井今日子・野田万紀子（京都）⑤村上真由・阪奥梨緒（奈良）⑥室伏江利子・橋本由恵（神奈川）⑦平川真衣・灰塚あゆみ（熊本）⑧小坂橋ヒロミ・小坂橋瞳子（福島）

好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『^{はく}魄』は生きるための生命力——
『^{こん}魂』は人間を善に導く原動力——

魂魄（こころ）が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る多くの知識を、智慧とすることができ、
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

——魂魄（こころ）を育てる——

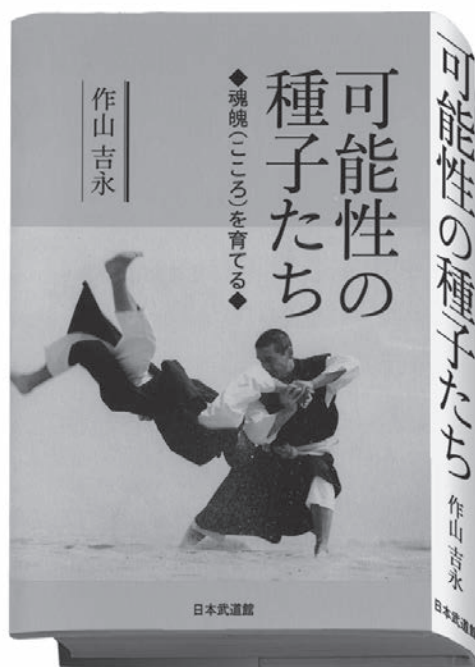
金剛禅総本山少林寺茨城高萩道院長

作山吉永 著

（四六判・上製・338頁）

主な目次

第1章 少林寺拳法／第2章 直心是道場／第3章 師事／
第4章 マイ・アメリカ／第5章 可能性の種子、芽吹く／
第6章 嵩山少林寺／第7章 魂魄（こころ）を育てる／
第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



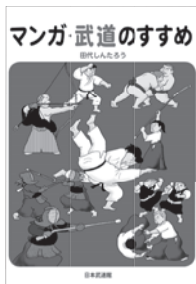
大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！



全日本なぎなた選手権大会

安喰愛^(島根)が連覇

2位は佐藤美穂子、3位は蓮見可奈恵と、若手選手が上位を占める



決勝＝安喰（右）対佐藤

皇后盃第57回全日本なぎなた選手権大会は、12月2日に神奈川県横須賀アリーナで開催された。全国から集まった55名の選手が出場、なぎなた日本一を目指して、熱戦が繰り広げられた。

決勝では前回優勝者の安喰愛四段^{あしきあい}（島根）と佐藤美穂子四段^{さとうみほこ}（大分）が対戦し、判定で安喰四段が勝って2年連続3回目の皇后盃を手にした。3位には蓮見可奈恵五段^{はすみかなえ}（埼玉）が入賞した。

開会式では、前年度優勝・安喰愛四段（島根）から皇后盃と優勝旗が返還された。次に、佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長が挨拶に立ち、続いて来賓の吉田雄人横須賀市長が祝辞を述べた。砂川邦子審判長による競技上の注意の後、安喰が選手宣誓を行った。

開会式が終わると、公開演武として、全日本なぎなたの形（打・吉井美恵子、仕・佐藤聖子）、天道流薙刀術（受太刀・砂川碧、仕太刀・木村恭子）、直心影流薙刀術（打太刀・園部正美、仕太刀・梶山武子）の演武が披露された。

優勝してきた先輩方の苦勞 少しだけど理解できた気がする

◎優勝Ⅱ安喰愛四段

「こうして若い人たちが上位を取れたということは、先輩たちを越えるように頑張つて稽古しているメンバーが増えていくことで、嬉しく思います。佐藤選手とは、合宿をしたり、連絡を取り合ったりして

いる仲の良いなごなた友達です。手の内もある程度知っているのですが、お互い探りながらという形になりました。途中で攻められた場面もありましたが、延長に入る時に良い切り替えができて、無意識に、次はこの技にしよう、と自分らしく発想してい

けたように思います。ただし、今回、判定が多かったのは反省すべき所だと思ひます。

初めての優勝のときは、連盟から出る人がいなくて、出場資格がない中、経験というつもりで出場し、あれよあれよという間に進んでいったので、翌年もプレッシャーはあまり感じなかったのですが、去年2回目の優勝をして、今年は全日本で連覇をかけて臨む難しさ、それに向けて1試合1試合戦つていく重みというのを実感しました。終わつて肩の力が抜けたというか、よかったなと思ひました。連覇されてきた方々の思ひを、少しでも理解できたような気がします。

高校からなごなたを始めた私は、他の人に比べると、なごなた歴はまだまだ浅いです。同じくらいの年齢でも、たくさん稽古を積んでいる人があるので、いろいろ教えていただいて、初心に戻つて基本から詰め直していききたいです。今回の結果に満足するのではなく、自分自身を見つめ直していった結果に、また良い成績を残すことができたらいいかなと思ひます」



直心影流薙刀術



天道流薙刀術



全日本なごなたの形



3位決定戦＝蓮見（左）対田中

◎第3位＝蓮見可奈恵五段

「ベスト8までいったことがあったので、ベスト4を目指してやってきました。3位に入れたなんて、まだ信じられません。先生方や家族に感謝しています。安喰先輩は大学の先輩、佐藤選手も同級生で、一緒に稽古したり、合宿をしったりしているので、一緒に入賞できたことはとても嬉しいですね。今度は決勝、優勝を目指して頑張りたいです」



準決勝＝安喰（右）対田中



準決勝＝佐藤（左）対蓮見

試合はトーナメント戦で行われた。5分間3本勝負で、時間内に勝敗が決しないときは判定となる。なお、決勝のみ3分間の延長の後、判定となる。

第1ブロックでは、前年度優勝の安喰が、2回戦、3回戦と面で一本勝ちして順当に駒を進めていく。準々決勝では判定となるも、石井知夏（神奈川）に勝って準決勝へ。

第2ブロックでは第55回優勝者・田中千景がベテランの技で勝ち進む。準々決勝の山本千代（和歌山）にも判定で勝って、準決勝で安喰と戦うこととなった。

第3ブロックには第51回選手権者の佐藤あき子（熊本）がいたが、初戦となる2回戦で井上美代（島根）に敗退。3回戦では井上と大倉直子（奈良）が対戦し、大倉が勝って準々決勝に進む。反対側からは、前回3位の貫井みさき（京都）を3回戦で破った蓮見可奈恵（埼玉）が勝ち上がる。準々決勝では、蓮見が小手で一本勝ち、ベスト4入りを果たす。

第4ブロックでは、最多7回優勝の記録を持つ池見敬子（愛媛）と第54回3位の佐藤美穂子（大分）が3

回戦で対戦、判定で池見が敗れ、早くも姿を消した。佐藤はさらに、準々決勝で石川ゆかり（茨城）に面を決めて一本勝ちして準決勝に進出した。

◇準決勝

安喰愛 判― 田中千景

開始間もなく、安喰が面、スネと続けて攻めると、田中はなぎなたを落として反則を取られる。安喰はその後面、突きを次々と放ち、田中も持ち替えを上手く使ってスネを狙うが、勝負がつかず判定となる。判定の結果、3対0で安喰が勝って今年も決勝へ進んだ。

佐藤美穂子 メ― 蓮見可奈恵

両者積極的に攻める一進一退の攻防戦が続く。残り1分を過ぎた時、佐藤の小手を躲（かわ）して蓮見が後にさがると、佐藤はその隙を逃さず面を放って一本。蓮見も最後まで攻め手を緩めないが、試合は終了し、佐藤が初の決勝進出を決めた。

◇3位決定戦

蓮見可奈恵 ココ― 田中千景

蓮見が小手、突きを中心に積極的

決勝、佐藤（奥）も最後まで果敢に攻めた
◎第2位＝佐藤美穂子四段

「安喰選手はとても慕っている先輩なので、決勝で戦えて良かったです。手の内も知ってるから、攻めるチャンスも分かっていたはずなのに、できなくて。先輩は私の空いているところをよく分かっているなと思いました。目標とするのは強いなぎなたではなくて、上手いというか、大きいなぎなたです。なぎなた特有の遠間、持ち替え、大きく上からとか、そんななぎなたができればいいですね」



佐藤浩市会長から皇后盃が授与される



会場となった横須賀アリーナ

◇決勝

安喰愛 判一 佐藤美穂子

開始直後、両者互いに面やスネで攻める。中盤にかけて徐々に安喰の手数が少なくなつて、佐藤の積極的な攻撃が目立つ。後半になると再び安喰の技が始め、激しい攻防が続

に攻め、一方の田中は相手の動きを見ながら慎重に技を出していく。開始から2分、蓮見が放った小手を決める。攻める姿勢を崩さない蓮見は、残り1分で2本目の小手を奪って勝ち、3位入賞が決まった。

くも勝敗が決まらないまま終了。延長戦に突入する。
安喰の動きがよくなり、遠間からの突きや、佐藤の攻めに合わせて面やスネを狙うが、決定打にはならない。3分間の延長でも勝負はつかず判定となり、安喰に旗3本揃って、安喰が2年連続3回目の皇后盃を手にした。

【大会結果】

優勝＝安喰愛四段（島根）

第2位＝佐藤美穂子四段（大分）

第3位＝蓮見可奈恵五段（埼玉）

鈴木亘^(埼玉)が 4年ぶりの優勝



決勝＝鈴木（左）対田中

第12回全日本男子なぎなた選手権大会は12月1日、神奈川県横須賀アリーナで開催され、全国から52名の選手が出場して争われた。決勝では、鈴木亘^{すずき なる}（埼玉）が前年度優勝・田中康介^{たなか こうすけ}四段（三重）を降して4年ぶり4回目の優勝。3位には板垣勇四段^{いたがき いさむ}（長崎）が入賞した。

試合はトーナメント戦で行われた。4分間3本勝負で、勝敗が決しない場合には判定となる。なお、決勝のみ2分間の後、判定となる。

前年優勝の田中康介（三重）は2回戦から登場し、2、3回戦と判定勝ち。準々決勝では小橋渉（大阪）にスネを決め、一本勝ちして準決勝に駒を進めた。

最多4回の優勝記録を持つベテラン・板垣勇（長崎）は前回欠場したため2年ぶりの出場となるが、今年も勝ち進み、準々決勝で増田良明（兵庫）を判定の末降して、準決勝で田中と対戦することとなった。

同じく2年ぶりの出場となるベテランの鈴木亘（埼玉）は、初戦となる2回戦は二本勝ち、3回戦は一本勝ちと順調に勝ち上がり、準々決勝

◇男子演技競技

大会前には公開競技として男子演技競技が行われ、矢部広大・鈴木亘ペア（埼玉）が優勝、2位は中村真人・黒住拓哉（奈良）、3位は榎本智史・榊清史（和歌山）となった。



優勝した矢部・鈴木の演技

でも田中博志（大阪）からスネを奪って準決勝進出を決める。

対するブロックからは、藤田智也（愛知淑徳大）が前回3位の榊清史（和歌山）を準々決勝で破って勝ち上がる。



準決勝＝鈴木（左）が藤田から面を奪う



↑準決勝＝田中（左）対板垣
←3位決定戦＝板垣（右）対藤田

◇準決勝

田中対板垣では、両者ともに面、スネを中心に終始攻め続けるが、一本となる決定打がないまま試合終了となる。判定となり、田中が2対1で勝って今年も決勝に進んだ。

鈴木と藤田の対戦は、開始30秒過ぎ、鈴木が飛び込んで面を打つと、これが一本となる。先制した鈴木は、藤田の激しい攻めを躲しながら、機を見て技を出していく。後半に差し

掛かる時、再び鈴木が2本目の面を決めて決勝へ。

◇3位決定戦

藤田が果敢に攻め続けると、板垣のなぎなたに弾かれる。板垣は遠間から面を狙っていく。終盤になると両者ともに手数が少なくなり、勝負がつかないまま試合は終了する。判定の結果、板垣の3位入賞が決まった。

◇決勝

互いに相手の出方をうかがいながらの慎重な攻撃が続く。2分過ぎ、鈴木が面を狙って飛び込むと、そのまま膠着状態となり、「別れ」。再開直後、田中が面を打ちに出たところで、鈴木のなぎなたが田中のスネをとらえて一本。その後は互いに攻め続けるが、決定打のないまま試合終了。鈴木の4年ぶり4回目の優勝となった。

◎優勝Ⅱ鈴木巨錬士

「優勝できるとは思っていませんでしたので、嬉しいです。田中選手は後輩なのですが、さすが去年のチャンピオンという感じで、完全に面を見切られていました。一本になったスネは咄嗟に出たものでした。

ただ勝つだけではなくて、人に感動を与えるような試合ができるように、一本を出せるようにと思って、稽古しています。大技でみんなに目標としてもらえるようななぎなたを極めていきたいと思っています」

◎第2位Ⅱ田中康介四段

「本当に良いスネをいただいたの

で、勉強になりましたね。今年は、鈴木選手や板垣選手などの先輩方が2年ぶりに出場しているので、先輩たちに自分がどれだけ近づけたのかを知るためのチャレンジのつもりで戦いました。実際に戦ってみて、前より離されたと感じました（笑）。知れば知るほど、離されますね。また頑張ります」

◎第3位Ⅱ板垣勇四段

「去年足を痛めて欠場して、2年ぶりに出たんですけれど、すごく楽しく試合ができて清々しい気持ちです。ずっと島根だったのですが、縁あって長崎に移りました。環境は変化しましたが、それはそれで勉強になっていますので、成長してと思っています。長崎の板垣としては初めての大会で、いろいろな意味でプレッシャーもありましたが、会場に来ると仲間がたくさんいて、気持ちよく試合ができました」

【大会結果】

優勝Ⅱ鈴木巨錬士（埼玉）

第2位Ⅱ田中康介四段（三重）

第3位Ⅱ板垣勇四段（長崎）

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい



戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の
苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るま
で、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り
返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い
上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、
武道指導者必読の一書。

◇第1章多感な少女時代 ◇第2章薙刀術教
員養成所 ◇第3章卒業 ◇第4章なぎなた
教師◇第5章全日本なぎなた連盟結成 ◇第
6章財団法人化 ◇第7章体協加盟と国体参
加 ◇第8章生涯続くなぎなたの道



私の歩んだ

なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永千代子 著

(四六判・上製・252頁)



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ<http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行！海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
（四六判・上製・370頁）

知っているようでよく説明できない武道のいろいろな文化・伝統的事柄を、古今の豊富な資料をもとに検証・解明していく。

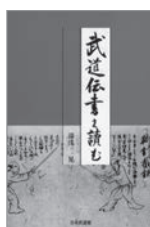


贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編
（四六判・上製・366頁）

全国各地のなぎなた範士25名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。



武道伝書を読む

天理大学教授
湯浅 晃 著
（四六判・上製・348頁）

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著
（B5判・並製・236頁）

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
（四六判・上製・410頁）

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
（四六判・上製・376頁）

傘寿を超えた武道界の先達30名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。

男子100kg級決勝で小林（手前）がイリアディスを一本勝で破る



優勝＝小林大輔選手（ALSOK）

- 男子 100kg級 小林大輔 優勝への軌跡
- | | | |
|------|------|--------------|
| 1 回戦 | ○袈裟固 | ヘツェル（チェコ） |
| 2 回戦 | ○大外刈 | ハッサン（パキスタン） |
| 準々決勝 | ○送襟絞 | レイズ（カナダ） |
| 準決勝 | ○内 股 | バッタルガ（モンゴル） |
| 決 勝 | ○内 股 | イリアディス（ギリシャ） |

柔道の国際大会、グランプリスラム東京2012が11月30日～12月2日の3日間、東京・神宮前の代々木第一体育館で行われた。

■男子

▽60kg級

高藤直寿（東海大）は準々決勝で志々目徹（日本体育大）を降すと、準決勝ではミルー（フランス）を背負投で破り、決勝では石川裕紀（了徳寺学園職）と対戦。東海大では石川がコーチで高藤は現役学生という関係だが、試合は開始2分、高藤が肩車で一本勝ち、先輩に恩返しした。

●優勝Ⅱ高藤直寿選手（東海大）

「講道館杯で負けて、苦しかったです。今日は日本の柔道らしくない技ばかりで全然だめでした。背負投もかからなかったし、今後は寝技も鍛えなければいけないと思います」

▽66kg級

一昨年世界選手権優勝の森下純平（筑波大）は、階級を上げて臨んだソビロフ（ウズベキスタン）と準々決勝で対戦し、払腰で一本勝ち。準決勝ではプリアエフ（ロシア）を肩固

男子73kg級決勝＝大野（手前）対中矢



●男子73kg級 大野将平 優勝への軌跡
 1回戦 ◎内 股 リー（香港）
 2回戦 ◎合 技 プライアン（カナダ）
 準々決勝 ◎合 技 トレノフ（カザフスタン）
 準決勝 ○合 技 カシバートル（モンゴル）
 決 勝 ○大外刈 中矢 カ（ALSOK）

小林大輔、5年ぶり V ―男子 100kg級 津金恵が大金星―女子 63kg級

グランドスラム東京 2012

で屠る。決勝ではラローズ（フランス）を開始3分、内股で仕留めた。
 ●優勝Ⅱ森下純平選手（筑波大）
 「自分の得意技で決められてよかった。この大会を勝つことを目標にしていたので、ほっとしました。立ち上がりの試合で危ないところがあったので、そこをつめていきたいです」

▽73kg級

ロンドン五輪で銀メダルの中矢力（ALSOK）が出場。決勝で講道館杯を制した大野将平（天理大）と対戦した。場外際での組手の攻防から大野が奥襟を持った瞬間に大外刈を仕掛けると、これが一本。大野がオール一本勝で初優勝を決めた。

●優勝Ⅱ大野将平選手（天理大）

「オール一本勝は目指している柔道なので、よかったです。中矢選手には選抜体重別で負けているので、借りを返せてよかったと思います」

▽81kg級

日本勢は川上智弘（國學院大職）が準決勝でヴォロベフ（ロシア）に一本負して全滅。ロンドン五輪金メダルのキム（韓国）が優勝した。

●男子66kg級 森下純平 優勝への軌跡
 2回戦 ◎優勢勝 ムミノフ(ウズベキスタン)
 準々決勝 ◎払 腰 ソビロフ(ウズベキスタン)
 準決勝 ◎肩 固 プリャエフ(ロシア)
 決 勝 ◎内 股 ラローズ(フランス)



▼男子60kg級決勝=高藤(手前)対石川



▲男子66kg級決勝=森下(奥)対ラローズ

●男子60kg級 高藤直寿 優勝への軌跡
 2回戦 ◎優勢勝 ファン(台湾)
 準々決勝 ◎優勢勝 志々目徹(日本体育大)
 準決勝 ◎背負投 ミルー(フランス)
 決 勝 ◎肩 車 石川裕紀(了徳寺学園職)

▽90kg級

国内敵なしの加藤博剛(千葉県警)は準々決勝で敗れた。ロンドン五輪銅メダルの西山将士(新日鐵住金)が五輪以来の大会に臨んだが、決勝でイ(韓国)の背負投に一本負して2位に終わった。

▽100kg級

穴井隆将(天理大職)が引退し、新しいエースの誕生が求められるこの階級。小林大輔(ALSOK)がオール一本勝で決勝へ進み、90kg級から階級を上げたイリアデイス(ギリシャ)と対戦。残り1分、小林得意の内股が決まって一本勝。5年前に前身の嘉納杯で優勝した時以来のタイトルを獲得した。

●優勝Ⅱ小林大輔選手(ALSOK)

「久々に大きなタイトルを持つてほつとしています。イリアデイス選手は下の階級の選手なので、100kg級の意地というか、負けられないと思いました」

▽100kg超級

七戸龍(九州電力)が準決勝に進出したが、シルバ(ブラジル)に敗



女子 48kg級決勝＝浅見（左）対メストレ

れて万事休す。日本勢は決勝に進出できなかった。決勝でシウバを破ったキム（韓国）が優勝した。

■女子

▽48kg級

浅見八瑠奈（コマツ）が五輪出場権を逃して以来、初めての国際大会に登場。初戦の準々決勝で十田美里（近畿大）を降すと、準決勝でジョン（韓国）を破って決勝へ。相手は山岸絵美（三井住友海上）を破ったメストレ（キューバ）。試合は最終浅見のペースで進み、最後は横四方固に抑え込んで一本勝した。

●優勝Ⅱ浅見八瑠奈選手（コマツ）
「攻めの柔道を心掛けていました。」

いろんな方々に迷惑と心配をかけてしまいました。皆さんは温かくて、人ってこんなに温かいものなんだと思いました。その優しさに応えるためにも、来年の世界選手権で三連覇を達成したいと思います」

▽52kg級

準決勝に昨年優勝の宮川拓美（コマツ）、橋本優貴（コマツ）、谷本和（環太平洋大）、ロンドン五輪銀メダルのベルモイ（キューバ）が進出。第一試合は宮川対橋本。終了間際、橋本が粘り強い寝技で横四方固に抑え込んで一本勝した。第二試合では谷本がベルモイを相手に善戦。延長戦まで技を出し続けて、判定をものに

した。決勝は橋本が小外刈で技有を奪って、初優勝を果たした。

●優勝Ⅱ橋本優貴選手（コマツ）

「内容がよくありませんでした。準決勝までは自分の柔道ができたと思います。ここは通過点なので、反省するところは反省して次に備えたいと思います」

▽57kg級

山本杏（桐蔭学園高）と宇高菜絵（コマツ）が初戦で対戦し、山本が2―1の判定で辛勝。山本は次戦の準々決勝も判定で勝ち上がると、準決勝はロンドン五輪銅メダルのパヴィア（フランス）から内股透で一本勝って、決勝進出を決めた。

決勝は平井希（自衛隊体育学校）と対戦。山本が優位に試合を進め、延長戦で二つ目の指導を奪って優勢勝し、高校生ながらシニアの国際大会での優勝を決めた。

●優勝Ⅱ山本杏選手（桐蔭学園高）
「最近試合が詰まっていたんですが、そういう中でも調整がうまくいきました。今日は技術より気持ちの方で頑張りました。まずは来年の世界選手権で優勝したいです」

●女子 48kg級 浅見八瑠奈 優勝への軌跡
準々決勝 ○優勢勝 十田美里（近畿大）
準決勝 ○横四方固 ジョン（韓国）
決勝 ○横四方固 メストレ（キューバ）

▽女子 52kg級決勝＝橋本（左）対谷本



●女子 52kg級 橋本優貴 優勝への軌跡
2回戦 ○内股 ドゥヌー（ベルギー）
準々決勝 ○横四方固 バレンティン（ブラジル）
準決勝 ○横四方固 宮川拓美（コマツ）
決勝 ○優勢勝 谷本和（環太平洋大）



女子 63kg級決勝＝津金（右） 対阿部

●女子 63kg級 津金 恵 優勝への軌跡

- 1 回戦 ◎優勢勝 ドレクスラー（オーストリア）
- 2 回戦 ◎内 股 ボーシュマンピナール（カナダ）
- 準々決勝 ◎腕十字固 トライドス（ドイツ）
- 準決勝 ◎優勢勝 シウバ（ブラジル）
- 決 勝 ◎優勢勝 阿部香菜（三井住友海上）



優勝＝津金恵選手（松商学園高）

▽63 kg 級

今春、63kg級ながら皇后盃に出場した高校2年生の津金恵（松商学園高）が、高校総体優勝の実績を引っさげて挑戦した講道館杯で3位入賞し、代表選手として出場した。

津金は1回戦を指導2で優勢勝すると、2回戦は得意の内股で一本勝。準々決勝では世界ランキング13位のトライドス（ドイツ）からは腕拉十字固で一本を奪う。準決勝はシウバ（ブラジル）を相手に内股が冴え、決勝進出を決めた。決勝の相手は阿部香菜（三井住友海上）。

津金は序盤から積極的に技を仕掛け、阿部に指導がつく。終盤、津金は得意の内股を防がれ、大内刈に変化。さらに小内刈に切り替え、阿部を横倒しにして有効を奪う。これが決勝点となり、津金が初出場で国際大会のタイトルを獲得した。

●優勝＝津金恵選手（松商学園高）

「嬉しいです。自分は挑戦者ですし、こういう大会に出るのは初めてなので思い切りやって、自分の柔道ができればと思って臨みました。今後は課題を克服して、出る大会で優勝したいと思います」

女子78kg超級決勝＝田知本(左)対オルティス



●女子78kg超級 田知本愛 優勝への軌跡
 1回戦 ○大外落 キム (韓国)
 準々決勝 ○大内刈 クエブス (ドイツ)
 準決勝 ⊖優勢勝 アルトマン (ブラジル)
 決 勝 ○片手絞 オルティス (キューバ)

▽70kg級

ロンドン五輪代表の田知本遥(東海大)は決勝に進出するも、ボルダール(オランダ)に延長の末に敗れて、準優勝に終わった。

▽78kg超級

田知本愛(ALSOK)が決勝でロンドン五輪金メダルのオルティス(キューバ)を相手に、内股で崩して絞め技に入り、オルティスは参つた。2年ぶりの優勝を決めた。

▽78kg級

決勝は緒方亜香里(筑波大)と佐藤瑠香(コマツ)の日本人対決。緒方が積極性を見せるが、中盤、佐藤が緒方の内股をかわし、そのまま横倒しにする有効。佐藤がこのリードを守って、緒方の連覇を阻んだ。

●優勝Ⅱ佐藤瑠香選手(コマツ)

「一本を取る柔道を教えていただいているのに、その姿勢が足りませんでした。やるべきことをやります」

●優勝Ⅱ田知本愛選手(ALSOK)

「五輪の出場権も逃して、この大会はどうしても勝ちたかったのです。次の世界選手権の優勝を目指します」



【大会結果】

◆男子	金	銀	銅	日本選手
60 kg級	高藤直寿 (東海大)	石川裕紀 (了徳寺学園戦)	ミルー (フランス) キタダイ (ブラジル)	志々目徹 (日本体育大)＝準々決勝敗退 木戸慎二 (日本体育大)＝1回戦敗退
66 kg級	森下純平 (筑波大)	ラローズ (フランス)	ブリャエフ (ロシア) 高上智史 (日本体育大)	福岡政章 (ALSOK)＝準々決勝敗退 吉田惟人 (神奈川県警)＝2回戦敗退
73 kg級	大野将平 (天理大)	中矢 力 (ALSOK)	カシバタル (モンゴル) 西山雄希 (筑波大)	栗野靖浩 (了徳寺学園戦)＝2回戦敗退
81 kg級	キム (韓国)	ボロベフ (ロシア)	ペナルベール (ブラジル) 川上智弘 (國學院大戦)	中井貴裕 (流通経済大)＝準々決勝敗退 春山友紀 (国士館大)＝準々決勝敗退 長島啓太 (JRA)＝2回戦敗退
90 kg級	イ (韓国)	西山将士 (新日鐵住金)	ボズバイエフ (カザフスタン) 下和田翔平 (日本体育大)	加藤博剛 (千葉県警)＝準々決勝敗退 吉田優也 (旭化成)＝準々決勝敗退
100 kg級	小林大輔 (ALSOK)	イリアディス (ギリシャ)	バツタルガ (モンゴル) ラコフ (カザフスタン)	熊代佑輔 (ALSOK)＝準々決勝敗退 谷井大輝 (東海大)＝2回戦敗退 浅沼拓海 (国士館大)＝1回戦敗退
100 kg超級	キム (韓国)	シルバ (ブラジル)	七戸 龍 (九州電力) ボンボワザン (フランス)	王子谷剛志 (東海大)＝準々決勝敗退 百瀬 優 (旭化成)＝準々決勝敗退 上川大樹 (京葉ガス)＝2回戦敗退
◆女子	金	銀	銅	日本選手
48 kg級	浅見八瑠奈 (コマツ)	メストレ (キューバ)	ジョン (韓国) ロスヌー (ベルギー)	山岸絵美 (三井住友海上)＝準々決勝敗退 十田美里 (近畿大)＝準々決勝敗退 岡本理帆 (藤枝順心高)＝1回戦敗退
52 kg級	橋本優貴 (コマツ)	谷本 和 (環太平洋大)	宮川拓美 (コマツ) ベルモイ (キューバ)	黒木美晴 (環太平洋大)＝2回戦敗退
57 kg級	山本 杏 (桐蔭学園高)	平井 希 (自衛隊体育学校)	パヴィア (フランス) リン (台湾)	石川 慈 (コマツ)＝2回戦敗退 宇高菜絵 (コマツ)＝2回戦敗退
63 kg級	津金 恵 (松商学園高)	阿部香菜 (三井住友海上)	シルバ (ブラジル) エスピノサ (キューバ)	片桐夏海 (コマツ)＝準々決勝敗退 田代未来 (淑徳高)＝2回戦敗退
70 kg級	ボルダー (オランダ)	田知本遥 (東海大)	今井優子 (了徳寺学園戦) ファン (韓国)	大野陽子 (コマツ)＝2回戦敗退 ヌンイラ華蓮 (環太平洋大)＝2回戦敗退
78 kg級	佐藤瑠香 (コマツ)	緒方亜香里 (筑波大)	コットン (カナダ) ユン (韓国)	穴井さやか (ミキハウス)＝1回戦敗退 岡村智美 (コマツ)＝1回戦敗退
78 kg超級	田知本愛 (ALSOK)	オルティス (キューバ)	朝比奈沙羅 (渋谷教育学園渋谷高) アルトマン (ブラジル)	山部佳苗 (山梨学院大)＝準々決勝敗退 白石のどか (JR 東日本)＝1回戦敗退

待望の 単行本化 嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

——その歴史と課題——

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。
数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの、先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

財団法人講道館図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



第1章 普及への意思

柔道史の原点
欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門
新大陸へ派遣第2号
異種格闘技に生きた前田光世
英国柔道の基礎―武道会
武道会を訪れた嘉納と高弟会田
小泉が語る英国柔道史
仏蘭西への道
メトード・カワイシとは何か
駐仏日本国大使 杉村陽太郎
続々と仏蘭西へ
海外より見た柔道―独逸通信
東洋への進出
異文化理解の容易な道

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜
嘉納逝き連盟成らず
欧州から国際柔道連盟の結成
講道館長、国際柔道連会長に就任
世界柔道選手権大会開催
東京五輪招致成功
東京五輪と正式種目柔道
パリの仇
体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進
変わり行く柔道
不易流行



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

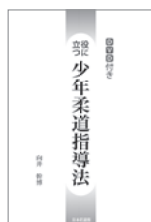


BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

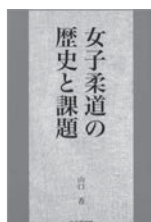


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）

◇全日本大学空手道選手権大会

男子団体組手

京都産業大が11年ぶりの大学日本一

女子組手、男女形は帝京大が優勝

第56回全日本大学空手道選手権大会は、11月18日に日本武道館で開催された。

大会では男子団体組手、女子団体組手、男子団体形、女子団体形の試合が行われた。男子団体組手では、京都産業大が決勝で近畿大を破って11年ぶりに大学日本一となった。女子団体組手、男子団体形、女子団体形は、帝京大が優勝した。

◆男子団体組手

63チームによるトーナメント戦で争われた。試合は5人制の団体戦で、2分間で6ポイント（準々決勝以降は3分間8ポイント）を先取した方が勝ちとなる。終了時に6ポイント（8ポイント）の取得がない場合はポイントの多い方が勝者となる。

全国の強豪校が集う中、前回優勝の近畿大、2位の京都産業大、3位の帝京大、国士舘大が今年も順当に勝ち進み、準決勝に進出した。

準決勝、近畿大と帝京大の対戦では、先鋒戦で近畿が勝って先制すると、次鋒戦は帝京が勝って、1―1。中堅戦で近畿が2勝目を上げると、再び副将戦で帝京が追いつき、勝敗



男子団体組手決勝中堅戦Ⅱ荒賀（龍）（左）対清水

は大將戦で決せられることとなる。

近畿の大將は大西誠一、対するは帝京・鈴木倫央。大西が中段突き、上段突きで有効を奪ってリードすると、鈴木の上段突きが一本となり、逆転。しかし大西が中段突きによる有効でポイントを重ね、4―3となったところで試合終了。近畿大が3年連続で決勝に進んだ。

一方の京都産業大対国士舘大は、先鋒戦で京都産業・荒賀慎太郎が8―0で、続く次鋒戦は判定により、京都産業大が勝ち。中堅戦は国士舘大が勝って2―1とするも、副将戦で京都産業・荒賀龍太郎が3勝目を上げて、決勝進出を決めた。

決勝

京都産業大	3―2	近畿大
杉尾駿也	0―5	佐々木廉太郎
一瀬健太	0―8	内田雄大
荒賀龍太郎	3―0	清水省吾
鹿村裕明	8―2	森一馬
荒賀慎太郎	2―1	大西誠一

決勝は3年連続での京都産業大と近畿大の対戦となった。

先鋒戦は近畿・佐々木がポイントを重ね、5―0で京都産業・杉尾を

降す。続く次鋒戦でも、近畿・内田が上段突きで一本、中段蹴りで技あり、再び上段突きで一本と、次々とポイントを奪い、京都産業・一瀬に1ポイントも取らせることなく試合を決める。

後がない京都産業の中堅は荒賀龍太郎。荒賀（龍）は上段突きで先制すると、さらに上段突き、中段突きでポイントを奪って、3―0で近畿・清水を降して次に繋げる。

副将戦、京都産業・鹿村が2ポイント先制すると、近畿・森が追いつく。鹿村はその後上段突きで地道にポイントを重ねて8―2で森を破り、大將戦にもつれこむ。

決勝副将戦Ⅱ鹿村（右）対森



決勝大將戦Ⅱ荒賀（右）対大西

大將は京都産業1年の荒賀慎太郎と、近畿の大西誠一。両者ともに慎重に攻めていく中、荒賀（慎）が上段突きで有効。荒賀（慎）はその後、警告で大西に1ポイント与えて同点となるが、中段突きで2ポイント目をあげる。終盤は激しい攻防となったが、2―1で試合終了。京都産業大が11年ぶり3回目の優勝を飾った。

◎京都産業大・津山捷泰監督

「監督を務めて48年になります。今回で監督を辞めるので、最後だから力を貸してくれという意気込みで、今回初めて、『100%優勝する』と宣言していたんです。『優勝することによって、社会に出て得るものが必



男子団体組手優勝Ⅱ京都産業大

ずあるから、努力しなさい。社会に出て必要なもの、倫理道德、礼儀など、そういう人間力、そういうものを身に付けてほしい。そのためには真面目に一所懸命やらないとそれはできない。勝つことも大事だけれど、それ以外のことがもっと大事なのではないか』ということを念頭に、指導してまいりました。

キャプテンを先頭によく頑張ってくれました。他の強豪校と違って、うちの男子部員は12名と少ないので、学生たちが真面目にやってくれているということですね。選手たちには、ありがとうと言いたいです」

◎京都産業大主将・荒賀龍太郎選手
「最高の気分です。3年間悔し涙だったので、最後に嬉し涙で終われて良かったです。決勝では2敗で自分に回ってきて、ここから勝負だと思って頑張りました。あとは任せられるチームメイトだったので、気持ちに勝負だと伝えて送り出しました。今日は日頃の練習の成果が出たのと、たくさんの方が応援に来てくださったおかげで優勝することができました。あとは一人ひとりの気持ちの強さが、この結果に繋がったんだと思います。また、師範も今年に懸けていたので、その期待に応えなければと思います。チーム全体で一所懸命やりました。優勝して恩返しが出来たと思います」

◆女子団体組手

55チームによるトーナメント戦で



女子団体組手決勝中堅戦Ⅱ染谷（奥）対伊東

争われた。試合は3人制の団体戦で、2分間で6ポイントを先取した方が勝ちとなる。終了時に6ポイントの取得がない場合はポイントの多い方が勝者となる。

準決勝に進んだのは前回優勝の帝京大、駒澤大、日本体育大、近畿大の4チーム。

帝京大対日本体育大では、帝京大が先鋒戦、中堅戦と続けて勝って、今年も決勝に進んだ。

決勝

駒澤大と近畿大の対戦では、先鋒戦は駒澤大が勝ち、中堅戦は引き分け、大将戦で再び駒澤大が勝って、駒澤大が決勝進出を決める。

帝京大	2-0	駒澤大
岡本奈菜	6-1	廣瀬まり
染谷香予	6-0	伊東佑季
植草 歩	×	三村桃子
先鋒戦、帝京・岡本が上段突きで		

◆男子団体形

一本取り、先制する。駒澤・廣瀬は上段突きで1ポイント奪うも、警告、注意で岡本にポイントを与え、6-1となつて試合終了。
続く中堅戦では、帝京・染谷が有効3つと最後に上段蹴りで一本奪って6-0で駒澤・伊東を降し、3年連続4回目の優勝を決めた。

◎帝京・岡本奈菜選手
「師範をはじめ、コーチの先輩方、OBの先輩方、後援会の方々、チームのみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。いままでやってきたことが全て出せたと思います。厳しい稽古をみんなで乗り越えてきたので、勝負自信はありました。後輩たちにも、稽古は厳しいけれど、それを乗り越えたら精神面でも本当に強い人間になれると思うので、みんなで闘っていつてほしいと思います」

形は男女とも、採点方式で行われる予選の上位4チームが決勝トーナメントに進出する。男子は10チームが出場し、帝京大、沖縄国際大、同志社大、山梨学院大が上位4校とな

った。

準決勝第1試合では、帝京大がソーチン、山梨学院大がスーパリーンを演武し、5―0で帝京大が決勝進出を決めた。

準決勝第2試合では、沖縄国際大と同志社大が対戦し、ともにスーパリーンを披露。4―1で沖縄国

際大が決勝に駒を進めた。

決勝、帝京大はウンスー、沖縄国際大はアーナンで臨んだ。その結果、帝京大に旗5本揃って、5連覇を果たした。

◎帝京大・杉野拓海選手

「4年で最後なので、今日は全力を

男子団体形優勝Ⅱ帝京大（ウンスー）



女子団体形優勝Ⅱ帝京大（ウンスー）



出そうと思っていました。決勝では気持ち乗っていて、とても良かったと思います。1年生のころからの積み重ねが現れました。それから、4年間育ててくれた学連の先生たちに、良い所を見せたいという思いがありました。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです」

◆女子団体形

9チームが出場し、予選の結果、帝京大、山梨学院大、同志社大、国士舘大の4チームが決勝トーナメントに勝ち上がった。

準決勝、帝京大対国士舘大では、帝京大がゴジウシホショウを、国士舘大がマツムラローハイを演武し、判定の結果、5―0で帝京大が勝って決勝に進んだ。

同じく準決勝の山梨学院大と同志社の対戦では、両校ともスーパリーンを演武し、4―1で山梨学院大が同志社大を破った。

決勝は帝京大と山梨学院大の対戦となった。帝京大はウンスー、山梨学院大はアーナンを演武。判定で帝京大に旗5本揃い、3年連続3回目の優勝となった。

◎帝京大・山本くるみ選手

「後悔のないように、これまでやってきたことを全て出したいと思っていたので、良かったと思います。私以外の2人はこの大会出場が初めてで、1人は1年生ですが、チーム内で互いに意見を言い合うことができ、環境をつくれたのが良い結果に繋がったのだと思います」

【大会結果】

▽男子団体組手

優勝Ⅱ京都産業大

第2位Ⅱ近畿大

第3位Ⅱ国士舘大、帝京大

▽女子団体組手

優勝Ⅱ帝京大

第2位Ⅱ駒澤大

第3位Ⅱ日本体育大、近畿大

▽男子団体形

優勝Ⅱ帝京大

第2位Ⅱ沖縄国際大

第3位Ⅱ山梨学院大、同志社大

▽女子団体形

優勝Ⅱ帝京大

第2位Ⅱ山梨学院大

第3位Ⅱ国士舘大、同志社大

好評発売中

平法

天真正伝香取神道流 師範
大竹利典 著

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

- 序 章 香取神宮御由緒
 - 第一章 歴史篇
 - 第一節 経津主大神の真伝、「天真正伝香取神道流」
 - 第二章 修行篇
 - 第一節 入門
 - 第二節 林先生に師事
 - 第三節 香取神道流最初の異国の門弟
 - 第四節 流祖生誕六百年記念祭
 - 第三章 技術篇
 - 第一節 剣術
 - 第二節 居合術
 - 第三節 棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
 - 第四節 柔術
 - 第五節 忍術
 - 第四章 軍学兵法篇
 - 第一節 遁甲術
 - 第二節 刀剣と密教
 - 第五章 思想篇—全ての修行者へ
 - 第一節 修行者の心得
 - 第二節 兵法は平法なり
- 平和を願う偉大なる教え



◎ご注文はインターネット **Amazon.co.jp** にて。全国の書店でもご注文いただけます。
◎お急ぎの方は、下記お問い合わせ先にご連絡ください。**送料無料**で販売いたします。



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



（B5判・上製・箱入・462頁）

古流武術研究家

横瀬

知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介！

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

全日本剣道連盟主催の第11回剣道文化講演会が昨年12月1日、東京・飯田橋のベルサール飯田橋ファーストで、約200名の剣道関係者を集めて開かれた。講演会は二部構成をとり、前半は宗教学者の山折哲雄氏やまおりてつおが講演を、後半は「剣道の国際的普及について」をテーマにパネルディスカッションを行った。

講演・山折哲雄氏（宗教学者）

講演タイトル「たおやめぶり」

冒頭、山折氏は10年ほど前に書かれた寺山亘中氏てらやまたんちゅうから『葉隠』で知られる佐賀鍋島藩藩士・山本常朝やまもとしやうちやうの書を見せてもらったと語った。しかし、その書を見ると、「武士道と云ふは、死ぬ事と見つけたり」という言葉を残した常朝の書とは思えないほど、やわらかく丸みを帯びた文字で、まさに「たおやめぶり」の書といったものだったと述べた。

山折氏はその理由を探るべく、「隠れる」と「花」という二つのキーワードを『葉隠』から見出し、そこに常朝の書の秘密が隠されているのではないかと推論をたてた。

そして、これらの言葉が既に日本



講演会の様子

剣道文化講演会

約 200 名が集まり、
剣道文化の理解を深める

神話や、西行、源頼政、世阿弥、松尾芭蕉の言葉に現れていることを指摘。日本人の精神文化の中に、「花」を「本質」の象徴とし、その魅力を「ちらつと見える程度に隠す」という面があるのではないかとした。

また、西行と源頼政の辞世の句を紹介し、二人が死の作法ともいうべきものを備えていたことを述べ、主君の死の際、追腹禁止令のために切

腹できなかった常朝が、この二人の死に方を意識していないわけはなかっただろうと語った。さらに、常朝は、神仏に対して念仏を一心に唱えることのように、主君に対しても献身・奉公が出来るのだろうかというジレンマを持っていたのではないかとした。

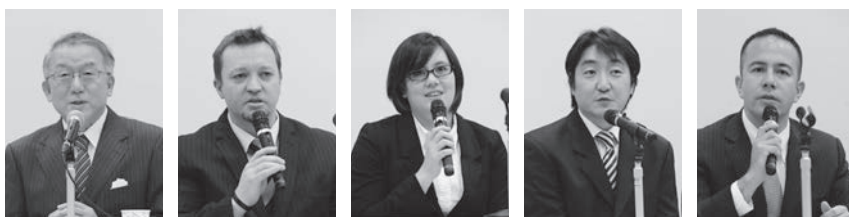
かつて、倫理学者の古川哲史氏ふるかわてしは、常朝が家人の西行を批判したこと

を取り上げ、『葉隠』という言葉が西行の歌からの引用との説を否定した。また、「武士道と云ふは……」という言葉益荒男ますらおぶりの言葉が広く知られているために、それが『葉隠』の象徴としてみられている。しかし、これらのことは、一面的な理解ではないとした。

そこで、『葉隠』の中で、常朝の抱えるジレンマをそのまま見ることが、常朝の魅力を明らかにする道に繋がるのではないかと結論づけ、「たおやめぶり」の書と感じた理由を示唆した。

最後に、フィギュアスケートの浅田真央選手の演技から想像したこと

を語った。優れたスポーツ選手の動きは、野生の動物の動きに似ている。浅田選手の演技は、始めは白鳥のようだが、終盤になると自然の中に溶け込んでいくような姿が見られる。これは浅田選手のものなのか、日本文化から出てきているものなのかは分からないが、フィギュアスケート界は、動物的野性を止めることに浅田選手をとおして実現しかかっているのではないかと述べ、講演を終えた。



パネルディスカッション参加者

写真左から、司会＝緒方喜治氏（全日本剣道連盟広報委員会委員）、パネリスト＝アレキサンダー・ベネット氏（関西大学准教授・ニュージーランド出身・剣道錬士七段）、リサ・ヴァン・ラーケン（株式会社山堂勤務・ベルギー出身・剣道四段）、阿部哲史氏（ベスプレム大学助教授〔ハンガリー〕・日本出身・剣道教士七段）、ジョナサン・曜・レヴィン小倉（岩手女子高等学校講師・アメリカ出身・剣道五段）



講演者＝山折哲雄氏

■ パネルディスカッション

〔司会者及びパネリスト別掲〕

テーマ「剣道の国際的普及について」

緒方氏の質問にパネリストが答える形で進められた。

▽ハンガリーとニュージーランドの剣道事情について

阿部氏、ベネット氏がそれぞれ答えた。共通的な点では、両国とも技術より精神性に興味を持っている修行者が多いということであった。これに関し、リサ氏から「剣道は体を動かすばかりでなく、自分の性格も作ってくれる」との発言があった。



パネルディスカッションの様子

▽「道」という面をどう伝えるか

阿部氏が「体で感じ取るようなものが基礎になるが、一部の外国人修業者は、言葉の指導で精神性が身につくと思っている」と述べた。

▽剣道の普及について

アレック氏がニュージーランドのクリケット競技の人口が、ここ5、6年で2倍に増えたことを例に示し、ルールを易しくして、遊びの要素を取り入れ、段階的に理想の形に近づけていく方法を提案した。

▽国際化について

小倉氏が「オリンピック競技にはなっていない。勝敗が中心となっていて、精神的なものが失われてしまっている」と述べた。また、阿部氏は「スポーツアコードに加盟したことは、剣道の社会的地位を高めるうえで意味のあることだった」と語った。

▽剣道の文化性をどう伝えるか

小倉氏が「深いところになると理解が難しくなるので、海外の修行者は次の段階に進むためにも、直接日本に来て学ぶ必要がある」とした。

ここで阿部氏はヨーロッパにおける剣道事業について触れ、「ヨーロッパでの剣道の歴史は50年ほどあ

り、六、七段も増えてきた。そのような者たちを伸ばすための講習会の開催が求められている」と伝えた。

▽インターネットの有用性について

パネリストは概ね肯定的で、阿部、小倉氏は動画サイトが技術の学習や試合相手の事前調査などに有効であること、リサ氏はコミュニケーションが交流に役立つことを紹介した。

▽次回の世界大会について

阿部氏は「ハンガリーのチームが日本との対戦を楽しみにしている」「小倉氏は「開催されるのが楽しみ」、現役選手でもあるリサ氏は「出場したらベスト8に入りたい」、アレック氏は「世界が日本の剣道に期待しているのは、模範を示すこと。品の良い剣道をしていただきたい」と述べた。

以上で全プログラムが終了し、来場者の拍手の中、幕を閉じた。



日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる
剣道修錬を集大成した
本格的剣道修行論

好評発売中!



写真提供 剣道時代

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

剣の清流



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

（四六判・上製・564頁）



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

（四六判・上製・346頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

（四六判・上製・386頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

（四六判・上製・268頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）

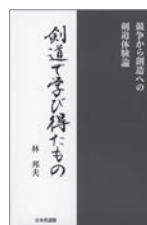


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

（四六判・上製・344頁）



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

（四六判・上製・298頁）